

大学教育改革フォーラムin東海の軌跡

2006-2021

大学教育改革フォーラムin東海の軌跡

2006-2021

発刊に寄せて

2022年3月開催の「大学教育改革フォーラム in 東海 2022」に久しぶりに参加しました。勤務先を関西地区に移してからそのまま退職したこともあり、東海フォーラムの開催案内は毎回目にはしながらも参加はご無沙汰していました。昨年の12月末に名古屋大学高等教育研究センターの齋藤芳子氏からフォーラム記録集の刊行についてお話があり、これがきっかけで今回のフォーラム・オンライン開催に参加の気持ちが動きました。立ち上げ当初から思いをもち続けた東海フォーラムの活動でしたが、事情でいったん気持ちが遠ざかると、やはり親しい方々からお誘いを受けるのでないと、私の場合は自力の起動は難しいと思いました。でも、参加に踏み切った当日は何の躊躇も感じることなく会場の発表や意見交換を楽しみました。コロナ禍を乗り越えるために学会などでもオンライン開催が広がり、参加者にとって物理的・心理的なハードルは確実に下がっています。その意味では、東海フォーラムの組織化の際に思い描いた全国からの参加も現実になるのではないかというのが感想です。

思い起こせば、2006年3月に第一回の東海フォーラムの創設に至る経緯では、愛知大学の栗原裕氏のマグマのような熱意に突き動かされ、名古屋大学の夏目達也氏とともに立ち上げを決心させられたというのが実情でした。名古屋大学の高等教育研究センターが核となって東海地区にも自前のFD・SDコンソーシアムを立ち上げる時機だ。栗原氏のこの説得を最初に聞いたときには、近場にある大学コンソーシアム京都の企画力と組織力への慮り、また東海地区大学のFD・SD協働ニーズの低調という判断もあって、私自身は受け身の姿勢でした。今となれば、それは栗原氏の洞察力と先見性に追いつけなかったからだと理解できます。

2022年の3月でもって東海フォーラムは16回の開催となりました。途中での存続の危機を乗り越え、2020年はコロナ禍によりやむなく中止になりましたが、持続的な活動としてここまでよく来ました。夏目達也氏のリーダーシップと高等教育研究センターのスタッフの皆さま、そして東海地区の各大学関係者のご尽力に心より感謝申し上げます。

今回のフォーラム収録集の刊行は、企画・運営の体制が高等教育研究センターの拠点方式から各大学有志の実行委員会方式に移行した節目にあたる企画だと推察します。今後は、草の根的な企画・運営の自主財源確保とスタッフ陣の育成とモチベーション維持に工夫を重ねながら、発表者・参加者にハードルの低いこれまでのアドバンテージを生かし、オンライン開催方式も柔軟に取り入れる持続的な東海フォーラムとなることを切望します。

今回の収録集に私の一文を寄稿させていただきまして、関係者の皆様の温かいご配慮にお礼申し上げます。

池田 輝政

はしがき

このたび、2006年から開催されてきた「大学教育改革フォーラム in 東海」の記録集を取りまとめることになりました。

本フォーラムは、この十数年間、ときに体制が変わり、ときに存続が危ぶまれつつも、その時々に関係者の知恵と努力によって、継続されてきました。現在は、実行委員会方式という全国的にも稀にみる体制によって、運営されています。そこに至る経緯や現在の実施体制などは、時とともに風化しやすいものでもあり、きちんと記録集の形で残しておくことが、今後のためにも重要であるという思いにいたったものです。

また、本フォーラムは、東海地域の大切な財産として、今後も発展していくことが望まれています。さまざまな人々にご協力をお願いし、新たな実行委員を迎えて活動を続けるためにも、本フォーラムのこれまでの活動をまとめておくことには、大きな意味があると思います。さらには、他地域、他大学や、高等教育行政にも参考になる史料となればと考えています。

本フォーラムの15年にわたる軌跡をご覧いただき、これからの歩みに向けてご助言・ご協力を賜ることができたら幸いです。

本記録集をまとめるにあたり、池田 輝政先生（U&C ストラテジー、愛知江南学園）、夏目 達也先生（名古屋大学）、中島 英博先生（立命館大学）、大津 史子先生（名城大学）には貴重な原稿をお寄せいただき、ありがとうございました。また、本記録集の企画・編集をご担当いただいた、齋藤 芳子先生、藤井 利紀先生に、心よりお礼申し上げます。

2022年3月

名古屋大学高等教育研究センター
センター長 北 栄輔

目次

i 発刊に寄せて (池田 輝政)

ii はしがき (北 栄輔)

iii 目次

第1部 軌跡をふりかえる

p03 1. 立ち上げの頃のこと：2006～2008 (齋藤 芳子)

p05 2. 大学間連携から地域拠点の活動へ：2009～2015 (夏目 達也)

p10 3. 実行委員会方式への助走：2016～2018 (中島 英博)

p12 4. 実行委員会方式の継続とオンライン開催という挑戦：2019以降(大津 史子)

第2部 資料集

p17 資料について (藤井 利紀、東岡 達也)

p18 開催概要

p20 分科会・セッション等の一覧

p28 ポスター発表一覧

p45 グラフで見る東海フォーラム

口絵 広報チラシ一覧

第1部 軌跡をふりかえる

1. 立ち上げの頃のこと：2006～2008

1. 立ち上げの背景

「大学教育改革フォーラム in 東海」は、2006年3月から始まった年1回のイベントで、東海地域で大学教育をよりよくしたいと考える教職員や学生、企業の人々、市民などが一堂に会し、教育改善の方策について率直に意見交換をすることを目的としています。このような取組は、2006年以前には関西など他地域にすでにあり、この地域においてもぜひ実施しようということで、有志が呼びかけて開催することになったものです。

2000年代に入った頃から、大学教育を改革しようという動きは、各所において活発化する萌しがありました。その背景には、文部科学省の動きもさることながら、大学進学率の上昇に伴う学生層および保護者層の変容、社会から大学に向けられる視線や期待の変容、また、そのあとに予想される少子化のなかでの大学経営・大学教育への備えという面など、多様な状況が絡みあっていました。

しかし、多くの場合において、大学教育を改善・改革しようという動きは個人の努力に依存しており、当然ながら限界がありました。大学の壁を越えて情報交換を行うこと、さらには協力・連携体制をつくっていくことが、大学教育改革を持続可能でインパクトのあるものとするためには不可欠だったのです。

2. 発足まで

東海地域での開催というアイデアをはじめに掲げたのは、栗原裕氏（愛知大学経済学部教授）でした。栗原氏が、東海地域の高等教育学の専門家でありFD・SDの実践にも通じた、池田輝政氏（名城大学大学・学校づくり研究科）、夏目達也氏（名古屋大学高等教育研究センター）のお二人に熱意をもって説得交渉され、2006年3月の開催に漕ぎ着けたのです。

この3名が、実行委員会、企画委員会のような形で会合を重ね、愛知大学車道キャンパスを会場に、濱名篤・関西国際大学学長による「大学改革と地域間ネットワークの役割」と題した記念講演にはじまり、午前・午後に4つずつの分科会、「FDの現状と効果と課題」についてのパネルディスカッション、懇親会まで、丸一日かけてのプログラムができました。

運営面では、会場校に勤務する栗原氏が実務を一手に引き受け、学内の協力を得て切り盛りしました。そのおかげで、フォーラム当日は、愛知大学、愛知学院大学、愛知淑徳大学、中京大学、名古屋大学、名古屋学院大学、南山大学、日本福祉大学、名城大学の教職員のほか、日本銀行、野村證券、愛知県教育委員会などからも参加があり、さまざまな交流の輪を広げることができたのでした。

3. 定期開催へ

第1回開催の時点で、第2回、第3回と年1回の開催を行うこと、夏目氏の所属する名古屋大学、池田氏の所属する名城大学で、順に会場校を引き受けることが既定路線となっていました。協議の結果、第2回となる2007年3月は名古屋大学東山キャンパスが、第3回は名城大学天白キャンパスが会場となりました。

第2回、第3回も、池田氏・栗原氏・夏目氏が引き続きプログラム編成の中核を担いました。プログラム上、第1回に分科会数が多すぎて聴きたいものが聴けなかったという声があったことをふまえ、分科会は計4つにおさえて一定の人数で実質的な議論ができることを重視しました。また、両回ともに懇親会を設定し、教職員の交流をより進められるよう、関係者が声がけなどを行いました。

運営面では、第2回は名古屋大学高等教育研究センターのスタッフが総出で事務局を務め、夏目氏が実行委員長として統括しました。第3回は池田氏が実行委員長となり、名城大学大学・学校づくり研究科の教員・大学院生や同大職員の連携で準備が進められました。

4. 立ち上げによって得られたもの

ふりかえってみると、名古屋大学高等教育研究センターの教員・過去に在籍した教員とその指導生、同様に名城大学大学・学校づくり研究科の教員と指導生が、企画運営と当日の発表や司会などを担当するケースが多くありました。このフォーラムの立ち上げによって、両組織の社会貢献的な要素がひきだされたと言えそうです。もちろん、両組織の各教員はFD・SDの講演依頼を平素から数多く受けていました。しかし、個別に大学を訪問することには時間的制約もあり、また大学によってはそのような招聘の機会をもてないケースもあります。誰でも参加できるフォーラムとすることで、両組織は社会貢献の幅を広げることができ、東海地域の大学教職員等は教育改善のための学びの機会をもつことができたのです。

しかし他方で、企画運営にはそれなりの労力と時間を割く必要があります。この3大学だけでフォーラムを回し続けてゆけるのか、他の大学から参画を得られる可能性があるのか、ということが当初からの問題意識でした。そして、はじめの3年間のなかでは答えがでなかったことも事実です。それでも、このフォーラムに続けて参加してくださる方もおり、なんとか年1回の開催を続けていこうという方向性は関係者にしっかり共有された3年間でした。

(齋藤 芳子)

2. 大学間連携から地域拠点としての活動へ：2009～2015

1. 「FD・SD コンソーシアム名古屋」との共催（2009～2011年）

1.1 「FD・SD コンソーシアム名古屋」とは

立ち上げ期の2006～2008年に続く2009年～2015年の7年間は、フォーラムの開催方式の面でそれまでとは異なるいくつかの特徴があります。大きくは2点あり、その1つは会場を名古屋大学に固定したこと、運営も名古屋大学高等教育研究センターが中心を担ったことです。立ち上げ期には、会場となる大学が毎年変化しており、運営の中心を会場校が担っていました。いま1つの特徴は、文部科学省による競争的資金を得て開催したことです。

会場の固定化や運営体制の整備については、フォーラムを安定的・継続的に開催するためには、運営体制を強化することが必要であること、関連して開催場所もある程度固定することが必要であり、かつフォーラム参加者への広報の観点からも好都合であることが考慮されました。この点は、フォーラム開催の立ち上げ時から、栗原氏が強く主張していた点です。氏はまた、東海地域において運営を恒常的に担える組織として、高等教育研究センターが最適であるとして、運営の中心を同センターが担うことについても強く要望していました。

運営体制の強化や開催場所の固定化の是非や可能性については、センターでたびたび検討していました。そこに、名古屋山手地区に立地する中京大学、南山大学、名城大学とともに、教育改善のためのコンソーシアム事業への参画の話が持ち上がりました。この事業は、文部科学省教育・研究特別経費に基づくものですが、名古屋大学執行部のリーダーシップにより全学を上げて取り組むことになりました。執行部からの強い要請を受けて、高等教育研究センターも参画することを決定しました（計画を立案し応募したところ、幸い採択されることになりました）。

高等教育研究センターは、種々の教育改善の活動を行ってきており、とくにFDで実績をあげてきたことをふまえて、コンソーシアムでもFDを中心とした活動を実施することにしました。教員の教育能力向上やそれを通じた教育改善を目的とするFDだけではなく、大学職員の職務能力向上を目的とするSDにも同時に取り組む必要があるとの認識に至りました。そこで、加盟3大学とも相談した結果、この点をふまえて、コンソーシアムの名称を「FD・SD コンソーシアム名古屋」とすることに決定しました。

同コンソーシアムは、2008年に発足しました。コンソーシアムの運営の中心となったのは、各大学が派遣する教職員代表で構成する運営委員会でした。同委員会では、各大学がそれぞれの強みを活かして独自の活動を展開すること、同時に、各大学の教育改善を支援する観点から、可能なものについては他大学にも積極的に開放して教職員の交流を図ることを確認しました。全国各地の大学から数多くの教職員が集い、教育改善のための成果を持ち寄り、その共有をして、各大学での教育改善を進めるという点で、フォーラムは上記の趣旨に適合します。その意味で、フォーラムがコンソーシアム活動の中心となるのは、必然であったといえます。

1.2 「FD・SD コンソーシアム名古屋」との連携による企画・運営へ

コンソーシアムの発足とともに、フォーラムの企画・運営方法は、従来の開催校を中心とする体制から大きく変化しました。フォーラムの開催の日時・場所・運営方針等の大まかな内容は、運営委員会で審議し決定したものの、プログラムの内容や広報の方法等の細部については、高等教育研究センター内に設置する実行委員会が担当しました。そのため、フォーラム実行委員会とコンソーシアムの共催という形をとりました。開催場所については、コンソーシアム事務局を担当する名古屋大学とすることで合意を得ました。2009～2011年の3年間は、この方式により開催することになりました。

この時期には、大会運営にあたって、さまざまな工夫をこらしました。まず、大会の運営方針を毎年設定することになりました。たとえば2009年は、教員・職員ともに参加しやすい形態を工夫することを掲げました。この方針に基づいて、具体的には、①ミニ・レクチャー「学生の悩みにどう対応するか」「留学生の悩みにどう対応するか」を新設、②ポスター発表を奨励、③参加費を無料化、④自由展示コーナーの設置等を行いました。

また、コンソーシアム加盟大学の教職員が、各セッションの座長や発表者などを担当するなど主導的な役割を果たしました。2009年には、加盟校の理事長が基調講演を行ったほか、2010年と2011年にはセッションの企画・実施を加盟各大学が担当しました。

セッションの数も2009年の4から2010年に6、2011年に8と着実に増え、ポスター発表等の新たな取り組みを導入するなど、内容が充実しました。さらに、コンソーシアムへの補助金を活用することにより参加費を無料化できました。その結果、参加者が増加し、2009年188名、2010年270名と飛躍的な伸びを見せました。なお、2011年は、前日3月11日に発生した東日本大震災の影響により、急遽一部の企画を中止するなど、規模を縮小して開催せざるを得ませんでした。

このように、コンソーシアム加盟各大学の全学的支援を背景に、各大学の教員・職員が実行委員会に参加するなど、フォーラムの企画・運営の体制が整備されました。その結果、開催担当校のみに大きな負担をかける従来のあり方が改善されました。加盟各大学の組織的な取組となり、実行委員会のメンバーもその点を意識しながら取り組むことになり、フォーラムを安定的に開催できる条件が整いました。

2. FD・SD 教育改善支援拠点事業との連携（2012～2015）

2.1 「FD・SD コンソーシアム名古屋」から「FD・SD 教育改善支援拠点」へ

「FD・SD コンソーシアム名古屋」との共催で、運営体制が整備され、財政的な裏付けも得られるなどして、フォーラムの運営は次第に軌道に乗ってきた感がありました。しかし、コンソーシアム事業の補助金は期限付きであり、2011年度に打ち切られることがあらかじめ

めわかっていました。そのために、補助金を得られなくなった後に、フォーラムをどのような形で発展・継承すべきかを検討すべきことが課題になっていました。

フォーラムの事務局を担当してきた高等教育研究センターでは、多様な可能性を模索した結果、文部科学省の教育関係共同利用拠点事業に応募することを決定しました。幸いにも、共同利用拠点としての認定を得ることができ、引き続き補助金を得てフォーラムを継続することが可能となりました。

2011年度からは、新たに「FD・SD教育改善支援拠点」という名称を掲げて活動を行うことになりました。「FD・SDコンソーシアム名古屋」による活動をふまえ、その成果を活用しつつも、いくつかの点で新たな課題に挑戦することになりました。活動を行うにあたり、以下の2点を目的として掲げました。

①大学教員の教育能力、大学職員の職務能力の開発・向上を通じて、教職員の自発的な教育改善の取組を改善すること。

②中部地域を中心とした各大学における教育・学生支援の質向上を実現すること。

①は従来と変化はありませんが、教育改善は、行政や大学執行部のいわば上からの指示ではなく、教職員の自発的な意志やそれに基づく創意・工夫こそが必要であることを、再度確認しました。②はサポートの対象が拡大することを意味します。これは同時に拠点として認定された東北大学、京都大学、愛媛大学との役割分担で、東海3県にとどまらず、北陸地域等の大学等を支援対象に加えることが要請されたためでもあります。フォーラムについても、この点を内外に示すために名称を変更してはどうかとの意見も一部にありました。しかし、これまでの取組の実績やその継承を大切にす観点から、変更には至りませんでした。

拠点としての認定を受けたのは高等教育研究センターであるため、その事業は高等教育研究センターを中心に進めることになりました。とはいえ、加盟大学をはじめ東海地域の各大学との緊密な連携によって、FD・SD活動を実施し、実績を積み重ねてきました。そのことがフォーラムの維持・発展を支えてきたのであり、この点を看過しては活動の継続・発展はあり得ません。この点をしっかり踏まえて、従来以上に連携を重視し強化する方針をセンターは確認しました。

2.2 「FD・SD教育改善支援拠点」を中心とする企画・運営へ

この期のフォーラムの運営は、コンソーシアム時代の方式や実績をベースに行いました。たとえば、コンソーシアム加盟各校の代表が実行委員会に参加したこと、各セッションの企画や運営を担当したことなどです（2012年まで共催団体にコンソーシアムが名を連ねました）。内容面でも、ポスターセッションを開催して多様な形態による成果発表や参加を促したことで、従来型のセッション（オーラル・セッション）を例年とほぼ同数（7～9）を開催したことを指摘できます。

その一方で、従来にはない新たな取組を工夫し導入しました。たとえば、各セッションでの発表を全国各地の大学等に所属する教職員に依頼したことです。拠点認定に伴い新たな

支援対象に加えた北陸地域の大学のみならず、東北、関東、関西、中国、四国の各地方の大学に所属する多彩な顔ぶれの教職員が登壇しました。とりあげる内容も、伝統的な正課授業の改善にとどまらず、長期学外実習での学生の学び支援、図書館での学習支援、留学生受け入れ問題、大学の IR 活動、学生による FD 活動、大学職員等による地域間交流・連携等々多様なテーマが並びました。

ポスターセッションでは、優秀ポスター賞を設けました。これはセッションの参加者による投票によるもので、選出されたポスター発表者には表彰しました。ちょっとした工夫ではありますが、発表者には励みになったし、参加者にも参加意識を高めていただけたのではないかと思います。

従来のミニ・レクチャーに代えて、ミニ・ワークショップを開催しました。ここでは、高等教育研究センターとの連携しつつ活発な活動を展開する物理学講義実験の研究グループが、多様な研究成果を毎年披露しています。

2013 年からは、パネル・ディスカッションに代えて、オーラル・セッションの数を増やしました。パネル・ディスカッションは、大学教育をめぐる主要問題（授業時間外の学習の支援、図書館の役割、学生のキャリア形成支援等）を取り上げ、問題に詳しい研究者や実践家が成果を報告したり、フロアとの質疑応答・意見交換等を行ったりしてきました。大教室で一堂に会して開催してきましたが、発言が登壇者中心になりやすくフロアの聴衆からは発言しづらいこと、その結果として議論も活発さを欠くことになりやすいことなどが指摘されていました。最後の時間帯に設定されてきたこともあり、遠方からの参加者には参加しづらく、参加者数も期待を下回るが多かったのです。その扱いをめぐって実行委員会内で一定時間をかけて検討した結果、当該時間帯を利用してオーラル・セッションを増やすことになりました。ふたを開けてみると、最後まで参加する人は多く、結果的には成功だったと考えています。

そのほか、この時期の特徴として、以下の点を上げることができます。第 1 に、実施体制が整備されたことです。高等教育研究センターのスタッフが中心になると同時に、コンソーシアム加盟各校の教職員が参加し、フォーラムを安定して開催・運営できるようになりました。また、名古屋大学で毎年会場になることで、参加者は事前にわざわざアクセスを確認しなくてもすむようになりました。

第 2 に、文部科学省の補助金を得たことにより、財政的裏付けを得ることとなり、基調講演の講師や各セッションの登壇者を遠方から招聘することができました。そのことにより、フォーラムが東海地域だけでなく、全国の大学等に向けて開かれていることをアピールできることになりました。名称は「大学教育改革フォーラム in 東海」であるとはいえ、大学教育改革の成果の共有が東海地域の大学関係者限定という意味ではありません。あくまで開催地が東海地域という意味にすぎません。

さらに登壇者の顔ぶれが多様になったことにより、講演・発表の内容も多様かつ魅力的なものになったように思われます。このことにより、依頼する講師・登壇者の幅を広げることが

できました。

第3に、参加者に対するアンケートを充実させ、その結果を公表することにしました。具体的には、FD・SD教育改善支援拠点の報告書「FD・SD教育改善支援拠点の活動」にアンケート結果を2013年から掲載し、同報告書を高等教育研究センターのウェブサイトにて公開しました。これにより、参加者がフォーラムの内容や運営について、どのような感想を持っているかを明確にしました。結果を参加者で共有するとともに、とくに実行委員会で次回に向けた改善のための検討材料とすることにしました。

第4に、名古屋大学の学内誌にフォーラムの開催状況を記事として掲載し、学内にフォーラムの存在について周知を図りました。フォーラムの存在を幅広い方々に知っていただき、より多くの方に参加していただくには、マスコミの協力を得ることも大切です。そのため、地元の新聞社に、フォーラムの意義や過去の実績等を説明するなどして取材を要請しました。しかし、残念ながら取材や記事掲載は実現しませんでした。

3. 2009-2015年のまとめと展望

2009-2015年は、「FD・SDコンソーシアム名古屋」「FD・SD教育改善支援拠点」との連携によるフォーラムの開催となりました。加盟各大学の全学的な支援を得たこと、実行委員会に加盟大学の教職員が加わり、企画・運営にも直接参加したこと、文部科学省からの補助金を得たこと等により、フォーラムの開催が安定しました。ただし、実行委員会のメンバーは、加盟各大学の教職員が中心であり、やや拡がりに欠ける感を否定できませんでした。内容を充実させより多くの参加者を得るなど、フォーラムをさらに発展させるためには、東海地域を中心としつつも各地域の大学の教職員が実行委員会に積極的に参加できるように環境を整えることが不可欠であることが認識されました。そのための取組は、次の段階の課題となりました。

(夏目 達也)

3. 実行委員会方式への助走：2016～2018

1. 拠点事業を離れて

「大学教育改革フォーラム in 東海」（以下、フォーラム）は2011年3月から2015年3月までの5年間、名古屋大学高等教育研究センター（以下、センター）の拠点事業として位置づけられ、センターの夏目氏を中心に、名古屋大学高等教育研究センター（以下、センター）の教員による事務局と、FD・SD コンソーシアム名古屋の4大学から派遣された教職員による実行委員とで、企画運営が担われていました。この当時は、フォーラムの歴史のなかでみると、拠点スタッフの全面協力や、拠点予算から運営費用を負担するなど、比較的手厚い体制が敷かれていました。

2015年春、センターは5年間の拠点認定期間を終えました。さらに、センターに発足時から在籍した教員2名が相次いで他大学へ転出したり、センターに大学から新たな業務が課される気配が濃厚となったりと、センターの状況そのものも大きく変わりつつありました。それはすなわち、フォーラムの運営母体が揺らぐということでもありました。

一時期は、フォーラムを続行することが必須なのかどうかという議論もなされました。しかし、多くの参加者が継続的な開催を期待しているという事実や、この東海地域の大学教育改革への支援を停滞させるわけにはいかないという使命感もあり、2016年も開催することに決めました。そこには、初回フォーラムの立ち上げに奔走した栗原裕氏（愛知大学）の強い思いがありました。

栗原氏の尽力により、2016年は有志によるボランティアの実行委員会を組織し、開催することとなりました。センター教員に加え、FD・SD コンソーシアム名古屋会員校の南山大学職員、名城大学大学院修了生、名古屋文理大学職員を加えたメンバーで実行委員を務めました。2016年の会場校は、栗原氏の勤務する愛知大学で新しく開設されたばかりの名古屋キャンパスとなりました。プログラム構成は、ほぼ前年度を踏襲した形になった一方、プログラムの合計時間は前年よりもすこし短くなりました。これは、主として会場校で借用できる施設の制限や利用時間の制限があったためですが、初めてのボランティア運営ということもあり、無理のない運営体制で開催できるプログラムとした側面もありました。また、2016年は名古屋大学からの運営費補助を受けずに開催するため、初めて2000円の参加費を徴収して開催しました。参加費による影響かは不明確であるもの、2016年の参加者数は約250名と2015年の参加者役340名から大きく減りました。

2. ボランティア運営の定着

2016年の開催経験から、フォーラムが有志のボラティアでも十分に開催可能であると判断できたため、2017年は稲垣太一氏（学校法人金城学院）に会場校の任にあたってもらうことになりました。稲垣氏はセンターの夏目氏のもとで修士号を取得しており、連携のしやすさや高等教

育学への基本的知見をもっていることが大きなポイントでした。この年のプログラムは、基調講演に加えて分科会を前半6、後半6の計12セッションにするなど挑戦的なものとなりました。しかし、参加者は134名とこれまでで最も少ない参加者となりました。2016年と同様2000円の参加費を徴収しただけでなく、実行委員会での準備が遅れ、開催の案内等が例年より大幅に遅れたためと思われます。

2018年は、同じく夏目氏の指導を受けた満田清恵氏（中京大学）から会場校の申し出がありました。当時の中京大学長であった安村仁志氏は、以前にフォーラム実行委員をお務めいただいたことがあり、フォーラムの趣旨をご理解いただけていたことや、FD・SDの重要性をお感じになっていたことが背景にあると推察します。実行委員会については、引き続きボランティアを募り、近隣大学の関心の高そうな教職員にお声がけもして、総勢19名という体制を組みました。分科会数については、運営のしやすさと交流の深さを考慮し、従前の計8セッションに戻しましたが、企画は各実行委員が分担して行いました。また、会場等のロジスティクスと企画が一名に集中することを避けるべく、ロジスティクスは満田氏が担い、企画の統括は稲垣氏がサポートするという体制がとられました。

3. 持続可能性の検討

実行委員会に東海地域の教職員の参集が得られ、フォーラムを存続することができました。しかし、実行委員の負担はそれなりにあるなかでうまく人を入れ替えながら存続していけるのか、いずれまたセンターの拠点認定がなくなっても困らない体制が必要なのではないかなど、実行委員会にはいくつかの課題がありました。

実際、別の方式の模索も行われていました。大学コンソーシアム京都のように、複数大学がかかわる団体を設立するというものです。実行委員の有志が中心となり、東海地域にある、大学の連合組織にかけあって、加盟大学の研修に位置づけることをご提案したこともありました。しかし、フォーラムの趣旨や意義に理解は示してもらえても、各大学からの費用や人材の拠出となると話は別でした。

2018年のフォーラムは、現在の実行委員会方式に近い運営体制の始まりだったと言えます。じつはこの年は、センターが新たな拠点認定を獲得した最初の年でもありました。夏の終わりの認定でしたので、フォーラムの企画が先に進んでいたこととなります。フォーラムに拠点からの金銭的支援ができる道筋ができましたが、かといって実行委員会方式の本格化の流れが止まることはありませんでした。地域の大学から意欲的な人材が集まったことや、フォーラムの企画運営を通じた人材育成の可能性をみていたことが、その背景にあります。

地域に根ざしたフォーラムらしい体制が組み上がるなかで、フォーラムの抱える課題にも変化のあった時期でした。

（中島 英博）

4. 実行委員会方式の継続とオンライン開催という挑戦：2019～

1. 委員会方式でのフォーラムの開催

2019年度からは、本格的な委員会での実施体制となりました。まず、委員会での本フォーラムの実施目的を「東海地域の大学を中心に全国の大学教育の発展のため、各大学が抱える課題や解決策を共有できる議論の場を創造すること（Good Practiceの共有）、他大学教職員とのネットワークを構築し、フォーラムを通じて各自の能力を高め強みを生かすこと（Human NetworkとEmpowermentの強化）」としました。つまり、基調講演や分科会のテーマは、まずは、実行委員が聞きたいこと、議論したいことから考えることとしました。また、2019年からは、名古屋大学高等教育研究センターの「質保証を担う中核教職員能力開発拠点事業」のサポートも得られることとなりました。

会場は、委員の各大学持ち回りで行うこととし、2019年のフォーラムは、名城大学のドーム前キャンパスで実施することになりました。受益者負担はあっても良いだろうという議論で有料での実施は継続し、プログラムを効率的に動かすため、昼食付きという方式をとりました。分科会にワークショップ形式を取り入れたのもこの年からとなります。さらに、分科会資料を登壇者の許可を得て配布資料とし、最後のアンケートに答えてくれた人に配布するという方法をとりました。これにより、参加者の反応をしっかりと把握し、ニーズや改善点の理解に役立たせることができるようになりました。

2020年からは、委員長を夏目達也氏（名古屋大学）から筆者（大津史子・名城大学）が引き継ぎましたが、教育が専門ではない私にとって、実行委員長を務めることは考えてもみなかったことで、非常におどろき、不安でもありました。しかし、実行委員会の組織としては意欲的で優秀な人材が集まっており、中島英博氏（名古屋大学：当時）と稲垣太一氏（学校法人金城学院）を中心に実施体制が構築され、委員がそれぞれ分科会のコーディネーターをする形で体制を組みました。会場は、名城大学の薬学部で実施することとなり、準備を進めていましたが、2019年末から始まった新型コロナウイルス感染症の猛威は広がり、ギリギリまで開催を悩んだ末に、2月末に開催中止を決定しました。その後、代替策として、別の時期の開催を検討しましたが、実行委員自身の都合は3月がベストであること、登壇者はそのままの実施を考えていましたので、その都合を考えると結局1年の開催延期という結論にいたりました。決定した当時は、苦渋の決断でしたが、その後の新型コロナウイルス感染症の状況はご存じの通りです。2020年4月の新年度の開始は前代未聞のキャンパス閉鎖からはじまるという大学教育にとって初めての経験となりました。

2. 初のオンライン開催

2021年の開催は、前年に開催予定であったプログラムを踏襲することは決めていましたが、その実施方法については、委員会ですぐぶん議論しました。開催延期を決定した時点で、

すでに Zoom などの新しいオンラインコミュニケーションツールは一部では利用されていましたが、委員会の委員自体の経験者は少ない状況でした。対面での実行委員会を当初は行っていました。感染状況をふまえて、実行委員会自体をオンライン開催に移行し、委員自体がオンラインコミュニケーションツールに慣れていきながら、実施形式を模索しました。その頃には諸学会や研究会もオンライン開催が行われるようになり、委員自体が経験を重ねながら、2020年の夏には、オンラインで開催することに決定しました。しかし、さすがに実行委員会で当日の運用を行うには、不安がありましたので、名古屋大学高等教育研究センターのサポートを得て、オンラインでのフォーラム運営はオンライン会議運営会社の支援を得ることとなりました。基調講演と5つの分科会、3つ体験型のワークショップなど多様なプログラムを準備し、Zoomのブレイクアウトルームを利用したポスター会場、最新の教育資材に触れる機会としての教育機器展示もブレイクアウトルームで実施することになりました。実施当日までにZoomの勉強会を実施し、当日は、対面実施であれば集うはずであった名城大学薬学部のマルチメディア教室に実行委員のみが集合してオペレーションを行いました。当日の参加は、これまでのフォーラムの最高である343人となり、大きなトラブルもなく、無事終了し、ほっとしたのを覚えています。

2022年の開催を決定するまでに、フォーラム実行委員会としては大きな試練がありました。長年、委員会の中心となり活躍されていらした夏目氏のご退職、中島氏のご転籍という2大柱をなくした状況となり、フォーラムの継続自体が危ぶまれました。しかし、実行委員の継続は力であるという思い、コロナ禍だからこそつながりを持ち続けたいという思いは消えることはありませんでした。そこで、新しい実施委員会を新しい実行委員の勧誘、実行委員会自体が成長することを目指した勉強会の開催、オンライン会議を基本としての負担軽減、各委員の2人体制の実施など、委員会の運営体制の改善強化を図りました。そのため、2022年の開催のための実行委員会の実際の活動開始は例年より半年近く遅れました。しかし、実行委員自体がやりたいこと、聞きたいことを中心に議論を重ね、会議に合わせ高等教育のトピックや実施しようとする分科会トピックの議論などの勉強会を重ねました。実行委員会での2022年のキャッチフレーズは、「学びを紡ぐ・つなぐ」とし、実行委員一人一人が学びを紡ぎながら、つないでいく活動を行い、2022年も基調講演、7つの分科会と1つの体験型ワークショップ、ポスター発表、企業展示をオンラインで実施することができました。ポスター発表では、oViceという新しいコミュニケーションツールを用い、ポスター発表の実感に近い発表を実施することができました。新しいツールですので、参加者の理解が進んでいないだろうと実行委員がオンライン上でこまめにサポートしたため、とてもスムーズに実施できました。2022年も、時間や距離を超えて、教育についての思いや悩みを議論し、情報共有し、学びを紡ぎながら、つなぐ機会を提供できたことは、実行委員会全員にとって大きな喜びとなりました。

3. フォーラムの振り返りとこれから

まとめとして、本フォーラムのミッションからみた成果を考えてみたいと思います。

① Good Practice の共有

オンライン開催としたこの 2 年は、全国各地から参加が集まり、各セッションとも議論が充実しました。学生の発達・成長のために大学教職員としてすべきこと・できることは多いことも実感し、コロナ禍においても、学びを止めることはできないこと、どんな状況下でも工夫し、進めなければならないことを再認識しました。大学改革・改善のために、大学の教職員が一堂に会して、各大学の取組やその成果を率直に出し合うことで、さらなる改善のための気づき、エネルギーを得る機会となったと考えています。

② Human Network の構築と Empowerment の強化

- ・ 実行委員会：2021 年の不開催とそれに続く体制の変動で、危機感が共有され、オンライン開催となったことで、各実行委員とも緊張感があったと思います。ほぼオンラインでの実行委員会とコミュニケーションツールの chat work を駆使して、議論し、情報共有し、時間と労力をかけて開催準備を行いました。東海フォーラムの趣旨・目的を実行委員で再確認・共有できたことも大きいと思います。フォーラム当日は、感染防御の上、集合して運営したことで、一体感、充実感も得られた様に思います。また、今年度は実行委員のメリットを考え、勉強会も企画実施できました。これらは、ネットワーク構築、エンパワーメント強化にはつながっているように思います。
- ・ 参加者：オンライン化による参加しやすさ、便利さは享受できたかと思います。参加満足度は高く、参加を同僚に勧めるという意見も多くありました。オンラインの便利さの恩恵により、コロナ禍でも教育改善への新たな情報や工夫を共有し、気づきの機会は提供できたと思います。しかし、2021 年実施時には、オンライン開催でのネットワーク作りはやはり不足しているかと感じましたので、2022 年には、oVice というオンラインコミュニケーションツールを利用した情報交換会を実施しました。参加者はそれほど多いわけではありませんが、久々に会う人がいたりポスター発表で聞けなかったことを議論できたりなど、新しい可能性も感じることができました。

With コロナの時代です。フォーラムの実施形態、実行委員会の運営体制、対面がいいのかオンラインがいいのか、併用がいいのか、・・・様々な検討課題がまだまだあります。しかし、多様な大学環境、多様な専門分野、具体的な部署も業務も多様という実行委員会のありかたや、その中で、作り上げていくフォーラムは、日常の環境にはないものです。これに関わることで自身が、グッドプラクティスの共有であり、ネットワーク作りであり、エンパワーメントの強化につながっていると本当に実感しています。それをまた、次世代にもつないでいくことも重要な任務だと感じています。

(大津 史子)

第2部 資料集

開催概要

年	日時	会場校	記念講演/基調講演
2006	3/04 10:00~19:00	愛知大学	大学改革と地域間ネットワークの役割 (濱名 篤 氏)
2007	3/10 10:00~19:30	名古屋大学	学長の本音が語るミドルマネジメントへの期待 (黒木 登志夫 氏)
2008	3/01 10:00~19:30	名城大学	新潟医療福祉大学・新潟総合学園・新潟からの発信 (高橋 榮明 氏)
2009	3/07 10:00~19:30	名古屋大学	東海地域の大学を元気にする教育改革とは (ハンス ユーゲン・マルクス 氏)
2010	3/13 10:00~19:30	名古屋大学	グローバル化の中の大学教育改革 (金子 元久 氏)
2011	3/12 10:00~19:30	名古屋大学	学生の学びを支援する大学改革 (小笠原 正明 氏)
2012	3/03 10:00~19:00	名古屋大学	震災後の日本社会と大学教育 (野家 啓一 氏)
2013	3/02 10:00~18:30	名古屋大学	学生の主体的学びをどう促すか (川島 啓二 氏)
2014	3/08 10:00~19:00	名古屋大学	勉強ができる人間は立派か？大学教育が目指すべき人間像 (羽田 貴史 氏)
2015	3/07 10:00~19:00	名古屋大学	大学教育改革を進めるために必要なものとは (秦 敬治 氏)
2016	3/12 13:00~19:00	愛知大学	高校と大学の双方が信頼できる高大接続のあり方 (大塚 雄作 氏)
2017	3/25 12:00~17:30	金城学院大学	新しいリーダーシップ教育とディープ・アクティブラーニング (日向野 幹也 氏)
2018	3/10 13:00~18:30	中京大学	大学ガバナンスから見た教育改革 (吉武 博通 氏)
2019	3/09 10:00~16:45	名城大学	今、大学の組織力が問われる—教育の質保証と教職員能力開発— (中井 俊樹 氏)
2020	3/07 10:00~16:45		開催中止
2021	3/06 10:00~16:45	オンライン ¹⁾	大学組織のリーダーシップとフォロワーシップ (両角 亜希子 氏)

1) 運営サイトは名城大学

パネルディスカッションのテーマ	セッション /分科会数	ポスター 発表件数	ミニワーク ショップ数	参加人数
FD の現状と効果と課題	8	-	-	約 100
今、学生は、大学は	4	18	-	約 100
大学の経営力と教育力	4	10	-	約 100
授業時間外の学習をどう支援するか	5	23	-	188
大学の学習支援における図書館の 可能性	6	33	-	270
大学におけるキャリア教育の課題と 可能性	8	31	-	196
学生に質の高い体験をどのように 与えるか	7	40	1	237
-	9	32	1	372
-	8	26	1	354
-	8	26	1	398
-	10	16	-	255
-	11	15	-	170
-	8	17	-	293
-	7	16	-	176
開催中止				
-	8	25	- ²⁾	343

2) ほかに企業展示（10件）あり。

分科会・セッション等の一覧

○2006年

- 1 「高大接続・初年次教育」
座長：鳥居朋子（名古屋大学）
佐藤元彦（愛知大学）、近田政博（名古屋大学）、寺田志郎（教育委員会）
- 2 「語学教育」
座長：酒井正志（中京大学）
安部悟（愛知大学）、只木徹（名城大学）、酒井正志（中京大学）
- 3 「大学評価」
座長：青山佳代（名古屋大）
栗本英和（名古屋大学）、篠田道夫（日本福祉大学）
- 4 「SD1 事務職研修」
座長：池田輝政（名城大学）
越立政彦（名城大学）、山本明（愛知大学）、前川勉（名古屋学院大学／名古屋大学大学院）
- 5 「SD2 キャリア支援」
座長：夏目達也（名古屋大学）
浅野邦仁（愛知大学）、三和義武（愛知淑徳大学）、犬飼斉（名城大学）
- 6 「金融・経済教育」
座長：家森信善（名古屋大）
湯本崇雄（日本銀行）、打田委千弘（愛知大学）、山下佳久（野村證券）
- 7 「専門職大学院」
座長：堀彰三（愛知大学）
榎本修（愛知大学）、澤木勝茂（南山大学）、本間靖規（名古屋大学）
- 8 「FD」
座長：池田輝政（名城大学）
田中英式（愛知大学）、中井俊樹（名古屋大学）、福山悟（愛知学院大学）

○2007年

- 1 「高大連携・初年次教育」
座長：鳥居朋子（名古屋大学）
大川正明（四日市大学）、樗木勇作（愛知淑徳大学）、中西孝徳（名城大学附属高等学校）
- 2 「大学職員の専門性と研修」
座長：池田輝政（名城大学）
河野千恵（椙山女学園大学）、田中岳（京都精華大学）、山本明（愛知大学）
- 3 「今求められるキャリア支援とは」
座長：夏目達也（名古屋大学）
上野徹（名古屋市立大学）、所智子（東邦学園大学）、服部真千代（名古屋大学大学院）
- 4 「FD が形成すべき能力とは」
座長：中井俊樹（名古屋大学）
佐藤元彦（愛知大学）、中島英博（三重大学）、齋藤芳子（名古屋大学）

○2008年

- 1 「高大連携プログラム」
座長：浦田広朗（名城大学）
栗原裕（愛知大学）、藤田高弘（名古屋大学教育学部附属中・高等学校）、高尾智士（河合塾）
- 2 「職員人材開発支援」
座長：中井俊樹（名古屋大学）
上西浩司（豊橋技術科学大学）、八木隆明（愛知大学）、出口博也（名古屋学院大学）、
難波輝吉（名城大学）

3「学生キャリア開発支援」

座長：夏目達也（名古屋大学）

吉井優貴（愛知淑徳大学）、伊藤彰茂（愛知みずほ大学）、井上法保（名城大学）

4「初年次教育プログラム」

座長：中島英博（三重大学）

小柳津久美子（キャリア工房）、所智子（愛知東邦大学）、下野正俊（愛知大学）

○2009年

1「学習意欲を高める授業上の創意工夫」

座長：栗原裕（愛知大学）

高野雅夫（名古屋大学）、中島英博（名城大学）、林淳一・児玉政和（名古屋学院大学）

2「大学認証評価への対応」

座長：戸田山和久（名古屋大学）

坪井和男（中部大学）、浜名優美（南山大学）、岩崎公弥（愛知教育大学）

3「高校は大学をどう見ているか」

座長：植田健男（名古屋大学教育学部附属中・高等学校）

鈴木勇治（名城大学附属高等学校）、野呂純二（南山高等学校女子部）、

二俣元春（中京大学附属中京高等学校）、山田孝（名古屋大学教育学部附属中・高等学校）

4「FD・SDのノウハウをどう共有するか」

座長：西田幹夫（名城大学）

宮川正裕（中京大学）、神保啓子（名城大学）、後藤剛史（南山大学）、久保田祐歌（名古屋大学）

ミニレクチャー「(1) 学生の悩みにどう対応するか」「(2) 留学生の悩みにどう対応するか」

司会：中井俊樹（名古屋大学）、講師：若山隆（日本福祉大学）、田中京子（名古屋大学）

○2010年

1「GP事業の取り組みから得たもの」

座長：山本忠弘（名城大学）

斎藤真左樹（日本福祉大学）、大武貞光（名城大学）、添田久美子（愛知教育大学）

2「ネイティブ教員が感じる大学教育の課題」

座長：照本祥敬（中京大学）

張勤（中京大学）、ニーナ・ペトリシェヴァ（中京大学）、ジェームズ・ダンジェロ（中京大学）

3「学生の書く力をどのように伸ばすか」

座長：久保田祐歌（FD・SDコンソーシアム名古屋）

宮地朝子（名古屋大学）、櫻井次郎（名古屋大学）、伊藤奈賀子（岐阜女子大学）

4「アメリカと日本におけるFD・SDの現状と課題」

座長：日野水憲（南山大学）

金山弥平（名古屋大学）、野崎能伸（名城大学）、寺岡寛（中京大学）

5「学士課程における科学基礎教育」

座長：千代勝実（名古屋大学）

三浦裕一（名古屋大学）、川浦佐知子（南山大学）、川勝博（名城大学）

6「大学院で大学職員のキャリアアップをめざす」

座長：伊藤彰浩（名古屋大学）

池田輝政（名城大学）、増田貴治（愛知東邦大学）、松下晴彦（名古屋大学）、室敬之（星城大学）

○2011年

1「地域のために大学ができること」

座長：栗原裕（愛知大学）

鶴飼宏成（愛知学院大学）、杉浦礼子（高田短期大学）、千頭聡（日本福祉大学）、

水野晶夫（名古屋学院大学）

2「大学職員の育成プログラムを考える」

座長：高木志郎（名城大学）

林透（北陸先端科学技術大学院大学）、檜森茂樹（学校法人名城大学）、村上孝弘（龍谷大学）

- 3 「『市民性』を育む教育プログラム」
座長：黒田光太郎（名城大学）
行本正雄（中部大学）、原田正樹（日本福祉大学）、戸田山和久（名古屋大学）
- 4 「図書館を通じたアカデミックスキルの育成」
座長：木俣元一（名古屋大学）
塩村耕（名古屋大学）、紅露剛（南山大学）
- 5 「学生の視点から見えてくる大学－日本人学生、留学生は日本の大学をどう見ているか」
座長：照本祥敬（中京大学）
パネルディスカッション①日本人学生、パネルディスカッション②外国人留学生
- 6 「大学職員研究の現在」
座長：中井俊樹（名古屋大学）
西浦明倫（立命館大学）、上西浩司（鳥羽商船高等専門学校）、中島英博（名城大学）
- 7 「文学教育のおもしろさとむずかしさ」
座長：日比嘉高（名古屋大学）
高木信（相模女子大学）、竹内瑞穂（愛知淑徳大学）、西原志保（名古屋大学）
- 8 「大学教育の中の大学博物館」
座長：高橋貴（愛知大学）
黒沢浩（南山大学）、吉田英一（名古屋大学）、緒方泉（九州産業大学）

○2012年

- 1 「自律的な学びを促す学習環境デザイン」
座長：太田達也（南山大学）
渡辺義和（南山大学）、森朋子（島根大学）、境一三（慶應義塾大学）
 - 2 「学習者中心の理数系授業を創るために」
座長：土屋孝文（中京大学）
白水始（中京大学）、何森仁（神奈川大学）、益川弘如（静岡大学）、
近藤秀樹（九州工業大学）
 - 3 「留学生受け入れにおける危機管理」
座長：近田政博（名古屋大学）
榎並岳史（新潟大学）、山口博史（名古屋大学）
 - 4 「地域間交流・連携で育む大学職員力」
座長：加藤史征（名古屋大学）
松村典彦（金沢大学）、小山敬史（名古屋大学）
 - 5 「改めて考える教養教育改革」
座長：宮嶋秀光（名城大学）
安村仁志（中京大学）、中裕史（南山大学）、森川章（名城大学）
 - 6 「大学行政管理学会（JUAM）を通じた大学職員の学び、成長」
座長：林透（北陸先端科学技術大学院大学）
稲垣智成（南山大学）、柴田眞由美（金城大学）、武藤正美（JUAM／名城大学）
 - 7 「図書館における学習支援－ラーニングコモンズの活用」
座長：木俣元一（名古屋大学）
加藤信哉（名古屋大学） 指定討論者：松林正己（中部大学）
- ミニワークショップ「現象と概念をむすぶ－物理学講義実験という挑戦」
企画：物理学講義実験研究会

○2013年

- 1 「大学職員の学びと実践」
座長：加藤史征（名古屋大学）
中元崇（京都大学）、満田清恵（愛知教育大学）、檜森茂樹（名城大学）
- 2 「融合的・総合的な理系教養教育の可能性」
座長：安田淳一郎（岐阜大学）
高橋真聡（愛知教育大学）、福士秀人（岐阜大学）、黒田光太郎（名城大学）

- 3 「協同学習の場としての大学図書館」
座長：岡部幸祐（名古屋大学）
中田晴美（名古屋学院大学）、次良丸章（静岡大学）
 - 4 「教務の実践的知識の共有」
座長：上西浩司（奈良教育大学）
辰巳早苗（大阪樟蔭女子大学）、小野勝士（龍谷大学）、村瀬隆彦（佐賀大学）
 - 5 「大学経営と評価」
座長：室敬之（星城大学）
花原大輔（名城大学）、角谷充彦（名古屋大学）、藤原将人（学校法人立命館）
 - 6 「教養・基礎教育の設計」
座長：栗原裕（愛知大学）
伊藤奈賀子（鹿児島大学）、内田啓太郎（関西学院大学）、久保田祐歌（愛知教育大学）
 - 7 「課題解決型学習の可能性」
座長：大津史子（名城大学）
加藤彰一（三重大学）、山口満（豊橋創造大学）、川北泰伸（同志社大学）
 - 8 「学生・学習支援の現在」
座長：池田輝政（名城大学）
橋本勝（富山大学）、増田淳矢（中京大学）、東誠（南山大学）
 - 9 「日本の大学における IR の実践とノウハウ」
座長：藤井都百（名古屋大学）
藤井都百（名古屋大学）、浅野茂（神戸大学）、阿部一晴（京都光華女子大学）
- ミニワークショップ「現象と概念をむすぶー物理学講義実験という挑戦（2）」
企画：物理学講義実験研究会

○2014年

- 1 「FD の大学間連携の実際とその効果および課題」
座長：中村和彦（南山大学）
耳野健二（京都産業大学）、亀倉正彦（名古屋商科大学）
- 2 「企画力のある大学職員の育成・成長と組織体制の構築」
座長：池田輝政（名城大学）
岡田雄介（龍谷大学）、宇宿悟（学校法人関西学院）、鶴田弘樹（学校法人名城大学）
- 3 「多様な大学構成員の相互理解を目指して一身体的障がい、発達障がい、性志向など」
座長：坂野尚美（名古屋大学）
古橋忠晃（名古屋大学）、安田真之（京都産業大学）、垣内俊哉（株式会社ミライロ）
- 4 「大学教育改革における職員の役割」
座長：則竹輝一（南山大学）
中村章二（愛知教育大学）、山崎めぐみ（創価大学）、平田有喜宏（同志社大学）
原裕美（学校法人名城大学）
- 5 「学生による FD 活動の可能性」
座長：銭佑錫（中京大学）
高橋和（名城大学）、花岡美咲（名古屋大学）、渡辺正夫（中京大学）
- 6 「教務事務における知識・スキルの共有及び継承」
座長：辰巳早苗（追手門学院大学）
近村元気（岩手大学）、宮林常崇（首都大学東京）、小野勝士（龍谷大学）
- 7 「大学生生活を充実させるための学生支援」
座長：中川正（三重大学）
青野透（金沢大学）、沖裕貴（立命館大学）、中川正（三重大学）
- 8 「学生の主体的な学びを引き出す」
座長：栗原裕（愛知大学）
森田佐知子・今井正文・山口満・見目喜重・三好哲也（豊橋創造大学）、宇田光（南山大学）、
鍋田智広・崔舜星・浅野哲夫・フェスタガード・キャサリン・ムタンゲーイ・ムンデランジ

(北陸先端科学技術大学院大学)
ミニワークショップ「物理学の講義実験から体験学習への発展の可能性を探る」
企画：物理学講義実験研究会

○2015年

- 1 「長期学外実習での学生の学びを支える教職員の関わり」
座長：中村和彦（南山大学）
竹本徳子（立教大学）、土屋耕治（南山大学）
 - 2 「勉強会の企画運営を通じた大学職員力の形成」
座長：小山敬史（放送大学）
山咲博昭（関西大学）、野澤貴代（名古屋大学）、内田智也（岐阜大学）
 - 3 「授業設計に多様な視点を組み込む」
座長：石橋健一（名古屋産業大学）
岩崎徳子（武庫川女子大学）、松浦照子（名古屋短期大学）、榊原暢久（芝浦工業大学）
 - 4 「図書館での学習支援とその担い手の新たな役割」
座長：佐野充（名古屋大学）
久保田進一（金沢大学）、高橋まりな（名古屋大学）、
伊藤舞・佐藤美穂・吉田有希・森彩乃（名古屋大学）
 - 5 「授業改善の内と外」
座長：三上肇（中京大学）
野田智洋（高知大学）、北川光太郎（三谷商事）
 - 6 「教育創造の草の根ネットワークー『教育サロン』活動ー」
座長：池田輝政（名城大学）
本田貴継（ラーニング・バリュー）、熊谷太郎（松山大学）、松本浩司（名古屋学院大学）
 - 7 「組織に着目した教務の実践的知識の積み上げとその継承」
座長：村瀬隆彦（愛知みずほ大学）
小野勝士（龍谷大学）、宮林常崇（首都大学東京）、上西浩司（豊橋技術科学大学）
 - 8 「大学業務の高度化と大学院での学習」
座長：浦田広朗（名城大学）
中村章二（愛知教育大学）、岡和寛（京都産業大学）、竹中喜一（関西大学）
- ミニワークショップ「物理学の講義実験から体験学習への発展の可能性を探るーその2ー」
企画：物理学講義実験研究会

○2016年

- 1 「今、大学の中で職員は何をなすべきかー大学が変革を求められる中、変革を推進する職員像を模索してー」
司会：村瀬隆彦（愛知みずほ大学・短期大学部）
加藤史征（名古屋大学）、辰巳早苗（追手門学院大学）、大津正知（九州大学）
 - 2 「大学を中心とした有機的地域連携」
司会：舟橋啓臣（愛知医療学院短期大学）
岡田善紀（清須市役所）、山本武司（キリンビール）、
式庄憲二（桜花学園大学・名古屋短期大学）、福本英司（中日新聞）
 - 3 「物理学講義実験から体験学習への発展の可能性を探るーその3」
司会：古澤彰浩（名古屋大学教養教育院）
齋藤芳子（名古屋大学）、小西哲郎（中部大学）、千代勝実（山形大学）、
藤田あき美（信州大学）
 - 4 「ラーニングコモンズを活用した学習」
司会：土屋玲（南山大学）
足立祐輔（愛知学院大学）、中元崇智（中京大学）
- 図書館1) 「大学図書館と地域連携」
司会：中村直美（愛知大学）
坂口雅樹（元明治大学）・中村直美（愛知大学）、新海弘之（愛知県図書館）

5「高大接続」

司会：夏目達也（名古屋大学）
親松和浩（愛知淑徳大学）、羽石優子（名城大学附属高等学校）

6「IRと経営改善」

司会：加藤誠（東海学園大学）
笹川修（日本福祉大学）、鶴田弘樹（名城大学）

7「グローバル人材育成」

司会：藤井玲子（愛知東邦大学）
松崎久美（愛知県立大学）、徳弘康代（名古屋大学）、砂山幸雄（愛知大学）

8「学生が学ぶ授業運営の工夫」

司会：中島英博（名古屋大学）
落合洋文（名古屋文理大学）、小柳津久美子（愛知東邦大学）

図書館2）「学生の学びと大学図書館における展示活動」

司会：次良丸章（名古屋大学）
岡本文子（中部学院大学）、西尾十和子（金城学院大学）、吉丸雄哉（三重大学）

○2017年

1「キャリア教育」

司会：横山順一（愛知学泉大学）
大仲聡子（名古屋産業大学／名古屋経営短期大学）、田端哲夫（東海学園大学）

2「学生がよく学ぶ成績評価を設計する」

司会：中島英博（名古屋大学）
青山佳代（愛知江南短期大学）、大津史子（名城大学）

3「物理教育におけるアクティブラーニングとその評価」

司会：中村泰之（名古屋大学）
田中忠芳（金沢工業大学）、中村琢（岐阜大学）、三浦裕一（名古屋大学）、安田淳一郎（山形大学）

4「学生の『資質・能力』の育成」

司会：長谷川元洋（金城学院大学）
長谷川元洋（金城学院大学）、松岡洋佑（株式会社イノベスト／名古屋大学）、
稲垣太一（金城学院高等学校）

5「自校教育にどのように取り組んだかー建学の精神、教育理念、自校史などをキーワードにー」

司会：阿部英樹（中京大学）
風間孝（中京大学）、田辺勝巳（愛知大学）、後藤宗理（椋山女学園大学）

6「自由論題1」

司会：近田政博（神戸大学）
鷺見恵美（名城大学）、池ヶ谷浩二郎・斉藤康夫（創価大学）、近田政博（神戸大学）

7「図書館・情報部門における学修支援」

司会：中村直美（愛知大学）
三浦文博（愛知大学）、石原有希子（愛知大学）、尾崎友子（名古屋女子大学）

8「高大接続・初年次教育」

司会：夏目達也（名古屋大学）
植田健男（名古屋大学）、内海那保子（愛知工業大学名電高等学校）、
柳瀬公代（金城学院高等学校）・内山潤（金城学院大学）

9「産学連携・入試制度」

司会：木村元則（愛知医療学院短期大学）
成玖美（名古屋大学）、冢本博一・杉山晃一（名古屋学院大学）、志村知美（追手門学院大学）

10「教育評価」

司会：落合洋文（名古屋文理大学）
松井恒雄（中部大学）、落合洋文（名古屋文理大学）

11「自由論題2」

司会：山内憲（名古屋文理大学）

亀倉正彦（名古屋商科大学）、町田小織（東洋英和女学院大学）、水野英雄（椋山女学園大学）

○2018年

1「発達障害のある学生への支援体制に関する現状や課題－修学支援・就労支援－」

司会：二宮加代子（愛知東邦大学）

堀田亮（岐阜大学）、肥田幸子（愛知東邦大学）、井上法保（名城大学）、
田中芳則（名古屋市総合リハビリテーション事業団）

2「高大接続」

司会：佐道明広（中京大学）

服部弘幸（岐阜県立郡上高等学校）、鳴川義雄（中京大学）、山本康二（学校法人河合塾）

3「現場で活躍できる教務系職員の専門性」

司会：村瀬隆彦（大学教務実践研究会）

村瀬隆彦（大学教務実践研究会）、宮林常崇（首都大学東京）、小野勝士（龍谷大学）

4「アクティブラーニングと学修成果の見える化」

司会：山本裕子（三重大学）

齋藤信（四日市大学）、三上仁志（中部大学）、山本裕子・久保田祐歌（三重大学）

5「教学 IR による大学教育の理解」

司会：大津史子（名城大学）

丸山和昭（名古屋大学）、児島完二（名古屋学院大学）、大津史子（名城大学）

6「組織マネジメント」

司会：大須賀久範（学校法人椋山女学園）

鶴田弘樹（名城大学）、小林嗣明（学校法人椋山女学園）、増田貴治（学校法人東邦学園）

7「今一度見直す授業設計」

司会：山内憲（名古屋文理大学）

落合洋文（名古屋文理大学）、石橋健一（名古屋産業大学）

8「物理教育におけるアクティブラーニングとその評価」

司会：安田淳一郎（山形大学）

千代勝実（山形大学）、佐藤実（東海大学）、古澤彰浩（藤田保健衛生大学）

○2019年

1「発達障害及びその特性のある学生への支援体制に関する現状と課題（第2弾）－理解と支援－」

司会：二宮加代子（愛知東邦大学）

高柳伸哉（愛知東邦大学）、堀田亮・川上ちひろ（岐阜大学）、佐々木銀河（筑波大学）

2「主体的・対話的で深いよりよい学びのために」

司会：山本裕子（三重大学）

村川弘城（日本福祉大学）、下村智子（三重大学）

3「いま、なぜ防災か－防災教育を通じて、学生とともに考える自主防災－」

司会：尾内里江（椋山女学園大学）

水谷俊之（佛教大学）、山本隆太（静岡大学）

特別企画「若手教職員のための今さら聞けない○○」

司会：森康介（名城大学）、講師：竹中喜一（愛媛大学）

4「入試改革への取組事例と高校現場から見た高大接続」

司会：山内憲（名古屋文理大学）

長谷川旭（名古屋文理大学）、松井慶太（愛知東邦大学）、

内海那保子（愛知工業大学名電高等学校）

5「地域市民の学び直しの現状を知る－大学にできることはなにか－」

司会：佐藤幸代（名古屋大学）

山下新太郎（愛知労働局）、工藤修（名古屋市教育委員会）、戸谷真美（愛知学院大学）

6「ワークショップ 教学 IR を教職協働の視点から考える－より円滑に IR による PDCA を進めるには？－」

司会：恒川幸司（岐阜大学）・大津史子（名城大学）

7「実務の視点から見た大学改革の現状と課題－ミドルキーパーソン（大学改革の推進役を担う実務担当者）の果たす役割とは－」

司会：大須賀久範（椋山女学園大学）
三井正人（豊田工業大学）、出口博也（名古屋学院大学）、原理仁（中京大学）

○2021年

1「科目レベルでの学修成果の可視化」

司会：中島英博（名古屋大学）
小松川浩（公立千歳科学技術大学）、齋藤正顕（工学院大学）、
野村聡・落合洋文（名古屋文理大学）

2「発達障害及びその特性のある学生への支援体制に関する現状と課題（第3弾）－新たな取り組み－」

司会：川上ちひろ（岐阜大学）
堀田亮・川上ちひろ（岐阜大学）、脇貴典（筑波大学）

3「セミナー型ワークショップA 今からでも間に合う高等教育政策の総復習」

講師：大津正知（中京大学）

4「ミニワークショップ 物理現象と概念を結ぶ－実験と講義の連携－」

オーガナイザー：物理学講義実験研究会、ファシリテーター：千代勝実（山形大学）
実験デモ：伊東正人（愛知教育大学）、古澤彰浩（藤田医科大学）、三浦裕一（名古屋大学）、
安田淳一郎（山形大学）

5「大学における組織マネジメントのあり方について－国公立大学における組織マネジメントの違いに着目して－」

司会：村瀬隆彦（学校法人梅村学園）
大津正知（中京大学）、宮林常崇（東京都立産業技術大学院）、橋本規孝（学校法人立命館）

6「コロナ禍における教学データ活用」

司会：山本裕子（名古屋商科大学）
栗本博行・韓尚憲・竹内伸一（名古屋商科大学）、井芹俊太郎（法政大学）

7「学生の学びを引き出す授業作り－ベストプロフェッサーへの道－」

司会：夏目達也（名古屋大学）
森尾吉成（三重大学）、東珠美（椋山女学園大学）

8「セミナー型ワークショップB Let's Try 傾聴ワークショップ－あなたは学生の声が聴けていますか？－」

司会：佐藤幸代（名古屋大学）、講師：松尾祥子（株式会社ソフィア総合研究所）

ポスター発表一覧

* 報告者の所属については第1 報告者についてのみ記載

2007 年のポスター発表一覧

P1	大学発ベンチャー創業による岐阜大学の活性化 中塚進一（岐阜大学/長良サイエンス（株））
P2	教務部門における事務職員の役割－愛知県の私立大学調査から－ 上西浩司（桜美林大学）
P3	ティーチング・アシスタント（TA）に月給制を採用している大学の事例 坂崎貴彦（名古屋大学）/長谷川誠仁/具然和
P4	i* See2007 教育改善学生交流 ～Talk and Think 学生力キラリ☆～ 橋本勝（岡山大学）
P5	考えるための「日本語リテラシー」教育 田中岳（京都精華大学）
P6	学生による授業評価への CS 分析の適用 南学（三重大学）
P7	教職授業の相互的運営・検討システム構築の提案 藤井基貴（愛知県立大学）/生澤繁樹
P8	オーストラリア・高等教育機関における職業教育の専門性－観光業の視点から－ 辻田雅美（名古屋大学）
P9	多様化する大学職員採用に応じた育成・配置について 前川勉（名古屋学院大学）
P10	キャリアセンタースタッフ研修の一考察 犬飼齊（名城大学）
P11	高校におけるキャリア教育のあり方 山西淳子（名城大学）
P12	名大の授業 山里敬也（名古屋大学）
P13	名古屋大学国際企画室 早川操（名古屋大学）
P14	高等教育研究センターの大学教員準備プログラムの開発と実施 夏目達也（名古屋大学）
P15	『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』の制作 近田政博（名古屋大学）
P16	『ティップス先生からの7つの提案』の可能性 中井俊樹（名古屋大学）
P17	豪州シドニー大学における FD – Principles and Practice of University Teaching and Learning (P&P)－ 鳥居朋子（名古屋大学）
P18	科学喫茶・科学酒場 齋藤芳子（名古屋大学）

2008 年のポスター発表一覧

P1	「名大授業開発研究会」活動報告（2007年度） 藤井基貴（名古屋大学）/生澤繁樹/山内保典/田中秀佳
P2	多人数授業の課題—学生の満足を高める授業実践とは何か— 藤井基貴（名古屋大学）/生澤繁樹/山内保典/田中秀佳
P3	General education の質を高める人材育成：インディアナ大学バデュー大学インディアナポリス校の コミュニティ・オブ・プラクティス 神保啓子（名城大学）
P4	大学英語教育の「非神話化」 只木徹（名城大学）
P5	教員の自発的な授業改善の促進・支援—授業改善ツールを活用した授業デザイン力の形成— 戸田山和久（名古屋大学）/夏目達也/近田政博/中井俊樹/齋藤芳子/藤井基貴
P6	大学キャリアセンター職員の専門性と研修内容 犬飼斉（名城大学）
P7	海外フィールド調査からみる台湾の高等教育の現状について—名城大学大学院大学・学校づくり研究 科海外フィールドワーク報告— 所智子（名城大学）/風岡治/難波輝吉/樋口義博/檜森茂樹/山田佳毅
P8	アメリカの哲学教育における教授法 久保田祐歌（名古屋大学）
P9	専門職大学院における MOT (Management of Technology)プログラム形成に関する研究 青山和順（名城大学）
P10	看護師等養成所の統合カリキュラム校の開設状況と今後 坂崎貴彦（名古屋大学）

2009 年のポスター発表一覧

P1	職業生活に資する話し方に関するプログラムの学習効果 平野美保（名古屋大学）
P2	「魅力ある大学院教育」イニシアティブプログラム—官学連携による生命技術科学教育の推進 柘植尚志（名古屋大学）
P3	産学連携による実践型人材育成事業—動物バイオテクノロジー分野における大学院生の国際的キャリ ア開発— 牧正敏（名古屋大学）
P4	大学問題についてさらに議論してみませんか—大学評価学会第6回全国大会の御案内— 橋本勝（岡山大学）
P5	中国における高等教育の大衆化とその課題 丁妍（中国復旦大学）
P6	大学のミッションと学士力—学士課程教育とアカウンタビリティ— 杉山知子（東海大学）
P7	身近な地域の企業から学ぶ経済 水野英雄（愛知教育大学）
P8	ワールドプラザ～外国語の実践力をつけるための空間～

	渡辺義和（南山大学）
P9	南山大学英語教育センター～共通教育の英語プログラムを組み立てる 渡辺義和（南山大学）
P10	英語による大学教育の現状と課題－米国大学エクステンションの役割 五島敦子（南山短期大学）
P11	「入学前セミナー」のパイロット実践と効果の課題 所智子（愛知東邦大学）
P12	主体的な学びの再生と復活を目指した家族援助力養成教育プログラム 新川泰弘（三重中京大学短期大学部）
P13	中国の高等教育及び日本語教育の現状 中村康生（名城大学）
P14	卒業予定者を対象としたカリキュラム調査とその活用 金田裕子（南山大学）
P15	専門職大学院制度を活用したメディカルスクール開設の展望 坂崎貴彦（名古屋大学）
P16	大学初年次における文章表現教育の構造 伊藤奈賀子（名古屋大学）
P17	教務担当職員による、学生に対する教育機能の研究 中村徹（名古屋大学）
P18	私立大学事務職員の職務に関する課題設定・解決能力とその形成 出口博也（名古屋大学）
P19	学生プロジェクトを支援する数理学教育 金銅誠之（名古屋大学）
P20	アメリカ哲学会の「就職の危機」への取り組み 久保田祐歌（名古屋大学）
P21	社会人大学院生のための学修支援ツール制作 齋藤芳子（名古屋大学）
P22	研究者のための科学コミュニケーション Starter's Kit 齋藤芳子（名古屋大学）
P23	英語による授業で効果的に学ぶためのハンドブックの開発 安田淳一郎（名古屋大学）

2010年のポスター発表一覧

P1	大都市型公立大学の公共政策的意義（大学令制定時の大阪を例に） 貝原亮（大阪大学）
P2	大阪大学附属図書館ラーニング・コモンズでのセミナー授業の試み 堀一成（大阪大学）/稲葉洋子/上原恵美
P3	教職協働による学生の自己理解研修の全学展開 本田直也（大手前大学）/石毛弓/伊藤めぐみ/奥田雅信/近藤伸彦/竹内正和/正田浩三/吉川博行
P4	Can-do リストと PDCA サイクルに基づく体系的な FD の試み 松本佳穂子（東海大学）

P5	グローバル化と高等教育の国際化：国際関係理論の観点から 杉山知子（東海大学）
P6	「リベラルアーツカフェ～静岡の教養～」の取り組み 藤井基貴（静岡大学）/宮田舞
P7	教育課程に準拠した情報提供の拡充 作野誠（愛知学院大学）/中野弥生/石田美佐/富田一文/對村絵美/小林瑞穂/吉田尚恵/宮城泰子/ 細田真里/鈴木維子/小寺麗加
P8	大学改革における学期のあり方に関する考察－教育の質保証と学生活動の視点から－ 中村章二（愛知教育大学）
P9	大学における理論の社会での実践－貿易ゲームを利用した体験型学習－ 水野英雄（愛知教育大学）
P10	教育制度の変化によるカリキュラム内容の改正について考える 三和義武（愛知淑徳学園）
P11	大学生に対する就職合宿の有用性－過少単位学生を中心に－ 池田暁生（愛知東邦大学）
P12	主体的な学びの再生と復活を目指した家族援助力養成教育プログラム（2） 新川泰弘（三重中京大学短期大学部）/尾島重明/木村拓磨
P13	教務担当職員のSDを考える 上西浩司（鳥羽商船高等専門学校）
P14	高等専門学校生の進路調査－岐阜工業高等専門学校の事例をもとに－ 佐藤健治（岐阜工業高等専門学校）
P15	実学の積極的導入による先端的工学教育 小林正和（豊田工業大学）
P16	クラスルームマネジメントスキル：出席カード活用方法 小林憲一郎（南山大学）/アンディー・マキナルティ
P17	短期大学の学生支援・学習環境整備－ボトムアップ型FDからFDコミュニティへ 五島敦子（南山短期大学）/伊東留美
P18	短期大学における学習支援－正課外のラーニングルームの活動を中心に－ 松崎久美（南山短期大学）
P19	大規模大学における学士力向上にむけた就職支援の充実 犬飼斉（名城大学）/大竹純平
P20	看護系大学が地域住民の健康支援に取り組む戦略的意義と課題 若山正代（名城大学）
P21	学生が本気で取り組む学びの方法論を考えるFD 神保啓子（名城大学）/難波輝吉/堀口朝示
P22	三重大学におけるラーニング commons の導入計画 柴山依子（三重大学）/谷口元/加藤彰一/長澤多代/小山憲司/湖内夏夫/原郭二
P23	三重大学における教育と附属図書館が提供する情報リテラシー教育 峯澄子（三重大学）/柴田佳寿江/小山憲司/長澤多代
P24	A4一枚からのFD 中井俊樹（名古屋大学）/長澤多代/齋藤芳子/近田政博/小山憲司/柴田佳寿江/峯澄子
P25	あらゆる学問分野でクリティカルシンキングを教える～理論的枠組みの検討～ 久保田祐歌（名古屋大学）

P26	名古屋大学における物理演示実験の開発と検討 安田淳一郎（名古屋大学）/三浦裕一/千代勝実/清水利文/夏目達也/近田政博/中井俊樹/齋藤芳子/森昌弘
P27	初年次教育におけるパスファインダーの活用～名古屋大学「授業資料ナビ」の試み～ 次良丸章（名古屋大学）/三根慎二/川添真澄
P28	名古屋大学中央図書館ラーニング・コモンズ～新しい学習支援環境と人的サポート～ 栗野容子（名古屋大学）/増田晃一/黒柳裕子/安福奈美
P29	大学におけるブランディング戦略－「理念」創出の視点から 中島由起子（名古屋大学）
P30	立命館大学におけるキャリア形成支援活動とその強みの構造に関する研究 西浦明倫（名古屋大学）
P31	教務担当職員の能力形成に関する研究－私立K大学における業務経験に着目して－ 中村徹（名古屋大学）
P32	大学生の進路決定過程に関する研究 新立慶（名古屋大学）
P33	私立大学職員の人事管理の研究－賃金管理を中心として－ 楯一也（名古屋大学）

2011年のポスター発表一覧

P1	「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」による大学の教育力向上 大竹奈津子（愛媛大学）/米澤慎二
P2	関西大学の教育改善を支える学生スタッフ 竹中喜一（関西大学）
P3	大阪大学附属図書館ラーニング・コモンズにおけるライティング講習の実践報告 堀一成（大阪大学）/赤井規晃
P4	智のパラダイム創生のためのイグナイト(IGNITE)教育 中越元子（いわき明星大学）/野原幸男/松本司/村田和子/山崎洋次
P5	受講生の意見・考えを知るためのクリッカーとポータル活用 青野透（金沢大学）/松尾理恵
P6	国立大学法人Aにおける組織機構改革について～組織行動学からの検証～ 伊奈経雄（北陸先端科学技術大学院大学）
P7	筑波大学春日ラーニングコモンズ－学生主体の活動と学習の場 逸村裕（筑波大学）/池内淳/呑海沙織
P8	英語カウンセリング・ルーム(E-ナビ)による体系的な授業支援 松本佳穂子（東海大学）
P9	大学図書館におけるラーニング・コモンズの現状とその特徴 小山憲司（日本大学）
P10	リーフレットで伝える「レポートの書き方」－<Master of Writing>の開発と活用－ 久保田祐歌（立教大学）
P11	「リベラルアーツカフェ～静岡の教養～」の展開 藤井基貴（静岡大学）/宮田舞/松原央達
P12	大学教育改革の観点からみた学習空間の再検討について 加藤彰一（三重大学）/毛利志保/ハサウネ・ファヘッド/柴山依子/長澤多代

P13	大学における自校教育―「理念」普及の視点から― 中島由起子（河合塾）
P14	授業改善を学生の学習に繋げる教育システム―タイム・マネジメントの視点― 中村章二（愛知教育大学）
P15	クリッカーによる授業内アンケート―匿名性に注目して― 岡田圭二（愛知大学）/龍昌治/佐藤嘉能
P16	大衆化した大学における就職支援上の課題 池田暁生（愛知東邦大学）
P17	短期大学におけるキャリア形成支援―リベラルアーツ系短期大学を中心に― 松崎久美（南山短期大学）
P18	大学教育の「考え方」を問い直す―「学問」の実験的利用の試み― 木田歩（南山大学）/山崎剛
P19	大学博物館における博学連携の実践―名城大学附属高校との連携授業― 黒沢浩（南山大学）
P20	現場触発型教育・学習による就業力の育成 宮崎信二（名城大学）
P21	学生の主体的な学びの方法論について考える FD 堀口朝示（名城大学）/楯一也/大武貞光/谷田朱
P22	名古屋大学における物理演示実験の開発―効果的な物理演示実験の導入法 安田淳一郎（名城大学）/千代勝実/中村泰之/小西哲郎/齋藤芳子/三浦裕一
P23	大規模大学における学士力向上にむけた就職支援の充実 犬飼斉（名城大学）/大竹純平
P24	FDとしての教員メンタープログラム 中井俊樹（名古屋大学）/伊藤奈賀子
P25	名古屋大学における物理演示実験の開発―慣性モーメントの定量的な理解 三浦裕一（名古屋大学）/千代勝実/中村泰之/小西哲郎/齋藤芳子/安田淳一郎
P26	名古屋大学における男女共同参画の取り組み～仕事と育児の両立支援を中心に～ 榊原千鶴（名古屋大学）
P27	ライティング・サポート in ラーニング・コモンズ～空間・人・資料～ 粟野容子（名古屋大学）/増田晃一/黒柳裕子/安福奈美
P28	日本と中国の初年次教育の比較研究 吳曉霞（名古屋大学）
P29	科学・技術教育を真ん中に置いた高大接続―愛知工業大学名電高等学校の場合― 内海那保子（名古屋大学）
P30	スマートフォン、タッチタブレットを活用した教育の情報化 伊藤一成（青山学院大学）
P31	地方の小規模私立大学が生き残る条件と方策とは何か？ 原田幸子（名古屋大学）

2012 年のポスター発表一覧

P1	ジェネリックスキル自己評価による“学びの成長”検証
----	---------------------------

	谷口進一（金沢工業大学）/青木克比古/石井晃/大林博一/中勉/高香滋
P2	米国教育システムの日本への展開—職員現地視察から— 中村章二（愛知教育大学）
P3	大学教務の Q&A—名古屋 SD 研究会からの発信— 上西浩司（鳥羽商船高等専門学校）/村瀬隆彦/水谷早人/辰巳早苗/長尾義則/中井俊樹/齋藤 芳子
P4	博士課程後期課程学生とポストクのキャリアパス支援 森典華（名古屋大学）/河野廉/植田速雄/武田穰
P5	地域を巻き込む FD—「英語教育お助けサイト」の構築 松本佳穂子（東海大学）
P6	学生の主体的な学びの方法論について考える FD 堀口朝示（名城大学）/高木志郎/楯一也/鈴木修二
P7	地域子育て支援拠点サポートスタッフ育成の取組 新川泰弘（関西福祉科学大学）
P8	女子高校生への工学部進学支援—教科「家庭」から 内海那保子（名古屋大学）
P9	学生・高校生が作る図書館パスファインダー 堀一成（大阪大学）/久保山健
P10	生涯発達の視点に着目した対人援助専門職養成教育 新川朋子（関西女子短期大学）
P11	大学マネジメント研究会若手編集委員会の活動から 池田一郎（筑波大学）/三橋ゆう子/中元崇/松永倫紀/加藤史征/染川真由美/小野里拓/林透/上垣友香 理
P12	現場触発型教育・学習による就業力の育成 宮崎信二（名城大学）
P13	「リベラルアーツカフェ～静岡の教養～」の活動 藤井基貴（静岡大学）/宮田舞/松原央達
P14	静岡大学における「防災道徳」教育の授業開発 藤井基貴（静岡大学）/上地香杜/松永尚徳
P15	世代をつなぐ学びの場～名古屋大学学童保育所の試み 榊原千鶴（名古屋大学）
P16	教員養成大学におけるジェネリック・スキルの養成 久保田祐歌（愛知教育大学）/満田清恵
P17	データに基づく大学改善—現場で集めた IR のギモン 藤井都百（名古屋大学）/中井俊樹/鳥居朋子/岡田有司/川那部隆司
P18	自己啓発を通じた職員力 UP！ 武藤正美（名城大学）/加藤千咲子/藤井徹
P19	芸術教育充実プロジェクト「アート・クラス」 茂登山清文（名古屋大学）/川喜田奈保/中島健志郎/戸田山和久
P20	ラーニング・アシスタントの活躍、活躍を支える組織 竹中喜一（関西大学）
P21	中国の高等教育改革における学生支援の課題 吳嬌（名古屋大学）
P22	BRD（当日ブリーフレポート方式）による講義の実際

	宇田光 (南山大学)
P23	現任者研修を意識した「教職実践演習」の開発 青山佳代 (愛知江南短期大学) / 森山雅子
P24	中国と日本の大学における初年次教育の比較研究 呉暁霞 (名古屋大学)
P25	SNS を活用した体験型学習の振り返り促進の試み 佐藤慎一 (日本福祉大学) / 影戸誠
P26	リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備 武田穰 (名古屋大学) / 渡辺正実 / 野中尋史 / 戸次真一郎
P27	あいちサイエンスフェスティバル 2011 藤吉隆雄 (名古屋大学) / 戸次真一郎 / 市原俊 / 大矢恵 / 大住克史 / 河本さつき / 竹内あかり / 古田央哲 / 寿桜子 / 武田穰
P28	大学図書館ラーニングコモンズにおける利用実態調査 毛利志保 (三重大学) / 加藤彰一 / 長澤多代 / Khasawneh, Fahed A
P29	大学経営者層の能力開発は誰がどのように行うか。 原裕美 (名城大学)
P30	大規模大学における学士力向上に向けた就職支援の充実 犬飼齊 (名城大学) / 大竹純平 / 山本剛毅
P31	主体的学びを促すジェネリック・スキル教育に向けて 満田清恵 (愛知教育大学) / 久保田祐歌
P32	facebook からはじめる大学間連携 角谷充彦 (名古屋大学)
P33	公立大学は必要か?~公立大学の歴史的変遷を中心に~ 大平恵 (名古屋大学)
P34	『持続学のすすめ』による実践型人材の育成 行本正雄 (中部大学) / 伊藤守弘 / 上野薫
P35	東日本大震災による日本の転換をどう教えるか 水野英雄 (愛知教育大学)
P36	教員養成系大学における金融教育の展開—金融・経済を教えるための実践的授業— 水野英雄 (愛知教育大学) / 鶴飼遥佳 / 前田宗誉 / 村井望
P37	リベラルアーツ型カリキュラムにおける経済学教育の展開 水野英雄 (愛知教育大学)
P38	物理学講義における系統的演示実験—提示順序の検討— 安田淳一郎 (名城大学) / 齋藤芳子 / 小西哲郎 / 中村泰之 / 千代勝実 / 古澤彰浩 / 三浦裕一
P39	大学におけるキャリア教育科目の現状と課題 安藤りか (名古屋大学) / 大谷尚
P40	ラーニング・コモンズはこう使われる—学生の利用状況からラーニング・コモンズの学習支援を考える— 岡部幸祐 (名古屋大学) / 堀友美

2013 年のポスター発表一覧

P1	アカデミックライティング科目の実践と意義に関する考察 林雅代 (南山大学) / 中野清 / 金田裕子
----	---

P2	「教養科目」に対する新しいアプローチ～社会連携型PBLによる同志社大学『プロジェクト科目』について～ 平田有喜宏（同志社大学）
P3	初年次導入教育が後年次の学修に与える効果 稲垣太一（名古屋大学）
P4	教室の外で哲学をまなぶー哲学カフェという手法についてー 三浦隆宏（椙山女学園大学）/久保田祐歌
P5	主体的な学びを育む学生 FD 活動 満田清恵（愛知教育大学）
P6	ラーニング・コモンズにおける学習環境デザインーグループ学習エリアの利用実態から考えるー 岡部幸祐（名古屋大学）/堀友美/安福奈美/鈴木美奈子
P7	臨床判断能力向上のための共育プログラムー気づきを与える指導薬剤師の養成を目指してー 長谷川洋一（名城大学）/大津史子/黒野俊介/伊東亜紀雄/後藤伸之/永松正/早川伸樹/脇田康志/ 半谷眞七子/藤崎和彦/野田雄二/今高多佳子/灘井雅行/小嶋仲夫
P8	東海がんプロの取り組み…組織横断的がん診療を担う専門医療人の養成… 立松三千子（名城大学）/金田典雄
P9	国境を越えた法制度の移植計画を立案し、実施を統括できる能力をもったリーダーの育成 松浦好治（名古屋大学）
P10	実践的リスク予防学の修得バイオ技術者育成 和田俊夫（中部大学）
P11	食の安全・食育にかかわる教育のための大学連携フードコンソーシアム 森山龍一（中部大学）
P12	『持続学のすすめ』による実践型人材の育成 上野薫（中部大学）/伊藤守弘
P13	中国の大学の学生支援における学生の主体性育成への注目 呉嬌（名古屋大学）
P14	中国の大学における留学生受入れ部門の役割変化に関する研究 姜雅琪（名古屋大学）
P15	愛知県立大学のグローバル人材育成推進事業 堀一郎（愛知県立大学）/木下圭一郎/川島香織/松崎久美
P16	大学国際化に対応するアカデミックキャリア形成支援の取組 東望歩（名古屋大学）/岩城奈巳/安井永子/中井俊樹
P17	グリーン自然科学国際教育研究プログラムの取組 藤縄祐（名古屋大学）
P18	大学教員の職能開発において『誰が』『誰を』『どのように』推進するかー大学教員のキャリア・ステージの視点からー 岡田準郎（名古屋大学）
P19	大学職員研修の展開期における体制・内容に関する基礎的研究 坪井啓太（名古屋経済大学）/伊藤博美
P20	私立大学事務局長の職務及び役割 原裕美（学校法人名城大学）
P21	大学職員の教育支援者としての役割に関する研究 竹中喜一（関西大学）
P22	映画を教材とした授業モデルの構築ー「ジェネリックスキル」の育成を目的としてー

	田中秀佳（名古屋大学）/寺田佳孝/小林忠資/中井俊樹
P23	アクティブラーニングに向けた授業開発の検討ー授業教材としての映画の可能性ー 寺田佳孝（愛知教育大学）/小林忠資/田中秀佳/中井俊樹
P24	教育デザイン研究室の取り組みと ICT 教材の活用状況について 竹生久美子（日本福祉大学）/吉田雅彦/佐藤慎一
P25	物理学講義における系統的演示実験のための教材開発と導入方法 三浦裕一（名古屋大学）/安田淳一郎/中村泰之/小西哲郎/千代勝実/古澤彰浩/齋藤芳子
P26	批判的思考に基づく自発性を大学教育で育成するための課題 山本晃輔（奈良教育大学）/鍋田智広
P27	教員養成系学部・大学のリベラル・アーツ教育の研究枠組みー学際学部の視点からー 内山弘美（非常勤講師）
P28	教員養成課程における「いじめ対策」に関する授業開発（中規模クラス編） 川村遼（静岡大学）/増本直弘 /平野能子/戸崎紗絵/藤井基貴
P29	教員養成課程における「いじめ理解」に関する授業開発（大規模クラス編） 深澤吉紀（静岡大学）/嶋田龍彦/三田千智/鈴木貴大/藤井基貴
P30	現任者研修を意識した「教職実践演習」の開発（その2）ー保育者の資質向上のための共同学習の意義ー 青山佳代（愛知江南短期大学）/森山雅子
P31	実践事例を通して主体的に学び考える保育士・幼稚園教諭養成 新川朋子（四日市大学）
P32	教員養成系大学におけるジェネリック・スキル教育の課題ー教員アンケート・ヒアリング調査結果をもとにー 久保田祐歌（愛知教育大学）

2014 年のポスター発表一覧

P1	岐阜大学における課題解決型長期インターンシップについて 廣瀬幸弘（岐阜大学）/佐々木実/今井健/児島功和
P2	静岡市街地の産業界と連携したプロジェクト型演習授業の実践 須藤智（静岡大学）/坂井敬子/日比優子
P3	インターンシップ前後の社会人基礎力の変化 丸岡稔典（名古屋産業大学）/石橋健一/吉川智/松原伸一/宮崎雄二/寺尾知未/世良淑子/成田暢彦
P4	産業界との連携を通じたアクティブラーニングとその評価ープロジェクト活動からー 伊藤圭一（豊橋創造大学短期大学部）
P5	グローバルリーダー育成プログラム（MEIPLES）実践報告 渡部留美（名古屋大学）/田所真生子/高木ひとみ
P6	全学教職課程における「教職実践演習への取組」（2） 榎田健志（岡山大学）/高旗浩志/三島知剛/江木英二/曾田佳代子/後藤大輔/佐藤大介/山根文夫/加賀勝
P7	児童虐待予防・防止のための啓蒙・啓発活動に関する学び 新川泰弘（関西福祉科学大学）
P8	教務担当職員的能力開発の方向性ー実態調査の分析からー 上西浩司（奈良教育大学）
P9	公立大学における事務職員の現状と課題

高谷美穂（滋賀県立大学）/梁間さよみ/大平恵/斉藤亜由美

-
- P10 国立大学法人における人事制度の変化
満田清恵（愛知教育大学）
-
- P11 大学コンソーシアム形成に必要な要素は何か
中元崇（名古屋大学）
- P12 愛知教育大学における教学 IR による教育改善の在り方
武寛子（愛知教育大学）
-
- P13 短期大学でのアクティブ・ラーニングの導入とその PROG アセスメントによる評価
堀江信之（静岡英和学院大学短期大学部）
-
- P14 ポートフォリオが学習支援に活用されるための知恵と課題
角谷充彦（エミットジャパン）/小村道昭/中井俊樹
-
- P15 大学院教育における研究室教育指針への取り組みと分析
崔舜星（北陸先端科学技術大学院大学）/鍋田智広/フェスタガード・キャサリン・ムタンゲーイ・ムンデ
ランジ/浅野哲夫/林透
-
- P16 教職員の協働性を育むラーニング・コミュニティFD ワーキンググループの活動報告―
五島敦子（南山大学短期大学部）
-
- P17 学生の主体性を引き出す学生と職員の協働事業―就職サポーター学生マイプロジェクト―
山本剛毅（名城大学）/有菌正弘/山端千佳/清水征志/酒井雄太/大池和敏
-
- P18 中国の独立学院における就職支援上の課題
楊思静子（名古屋大学）
-
- P19 中国の大学における創造性教育の萌芽と発展
王卉（名古屋大学）
-
- P20 大学生の授業内と授業外の学習行動
稲垣太一（名古屋大学）
-
- P21 Reading Diary を活用した外国語リーディング指導
厨子真由美（常葉大学）
-
- P22 大人数授業におけるアクティブ・ラーニングの実践開発とその教育効果に関する検討
秋山太郎（名古屋学院大学）/松本浩司
-
- P23 教員養成教育における「文脈的教授・学習」としてのプロジェクト・ベース学習
松本浩司（名古屋学院大学）
-
- P24 教職における映画を活用した授業実践―専門性の育成に向けて
小林忠資（名古屋大学）/寺田佳孝/中井俊樹
-
- P25 ICT だけに依らない授業改善支援の一事例
長谷川紀幸（横浜国立大学）
-
- P26 物理学講義における系統的講義実験―授業中に行う物理学実験の実践例―
三浦裕一（名古屋大学）/小西哲郎/中村泰之/古澤彰浩/安田淳一郎
-

2015 年のポスター発表一覧

-
- P1 大阪大学における全学出動体制を目指したアカデミック・ライティング指導の取り組み
堀一成（大阪大学）/坂尻彰宏
-
- P2 名古屋哲学教育研究会のこれまでとこれから―活動内容と課題および展望―
久保田祐歌（徳島大学）
-

P3	ドッキング判定方式によるリアクションペーパー分析 須田昂宏（名古屋大学）
P4	松山大学経済学部での意欲を引き出す初年次教育実践報告 安田俊一（松山大学）/熊谷太郎/松井名津
P5	大学生の学習行動と学習ジレンマの変容－国立N大学2年生への継続調査－ 稲垣太一（金城学院高等学校）
P6	アクティブラーニング入門における反転授業の実践 杉森公一（金沢大学）/白嶋章
P7	アクティブラーニングの能力獲得を目指した情報リテラシー教育の実践報告 佐藤尊範（東海学院大学）
P8	反転授業の活性化への取り組み－就実大学反転授業研究会の活動と成果－ 中西徹（就実大学）/就実大学反転授業研究会
P9	アクティブラーニングによる「エコジョ」育成 水野英雄（椙山女学園大学）/熊澤有里
P10	女性リーダーシップ科目のWLIの実践 長谷川元洋（金城学院大学）
P11	ロールレタリングを用いた学生支援 佐瀬竜一（常葉大学）
P12	愛知大学における留学生キャリア支援の現状報告 塚田麻美（愛知大学）
P13	留学プログラムの改善を目指して－学生へのアンケートに基づいて－ 山川健一（安田女子大学）
P14	国際産学連携プロジェクト－インドネシア知日派人材育成ジョイント・プログラム－ 松崎久美（愛知県立大学）/ロベル智子/小座野八光/三宅貴子
P15	大学教職員リスク管理シミュレーションのすすめ－海外体験型教育推進の準備と心構え－ 安藤由香里（大阪大学）/片山歩
P16	追大発教職協働事例－自主研究活動を通じた分析手法の向上による教学支援－ 難波純子（追手門学院大学）/古川恵津子/神谷聡子/坂崎貴彦/井上和子/上石恵一
P17	人員（ヒト）なし権限（モノ）なし予算（カネ）なしでどうやって事業を開催したか 玉井大輔（滋賀県立大学生生活協同組合）/木下高志/中島典子
P18	I Rの継続性を担保する仕組み－学内データの情報を文書化する「京都光華I R辞書」－ 橋本智也（京都光華女子大学）
P19	短期大学における教育効果の可視化とキャリア意識の影響 鈴木真（南山大学）/大塚知津子/中島和成/上原正子/中井俊樹
P20	初年次におけるキャリア教育の予備的研究 江利川良枝（名古屋学院大学）/安藤りか
P21	社会人基礎力養成に係る教育効果の主観的・客観的評価事例 早瀬光浩（豊橋創造大学）/見目喜重/今井正文/山口満
P22	九産大生としての基盤（土台）を培う！！その名は「KSU基盤教育！！」 一ノ瀬大一（九州産業大学）/秋山優/松本孝徳
P23	継続して行う地域連携についての課題－路面電車プロジェクト2年目の教員の気づき－ 伊藤圭一（豊橋創造大学短期大学部）
P24	大学と社会をつなぐ授業－学生の学びをどう捉えるか－

長田尚子（清泉女学院短期大学）/武田るい子/馬場武/村田信行/森田泰暢

P25 我が国の大学コンソーシアムの類型化の試み

中元崇（名古屋大学）

P26 教員養成系大学のリベラル・アーツ教育－科学リテラシーから4つのリテラシーへ－

内山弘美（大学非常勤講師）

2016年のポスター発表一覧

P1 「名城大好き！」学生を増やす学生ピア・サポート

鷺見恵美（名城大学）

P2 教職協働による新たな知の創造～セレンディピティの可能性を高めるための工夫～

野田育宏（神戸常盤大学）/伴仲謙欣/桐村豪文/高松邦彦/中田康夫

P3 学生による海外留学促進活動：留学前後のピアサポート

村山かなえ（名古屋大学）/岩城奈巳/名古屋大学留学のとびら

P4 大学生の学習時間についての文献レビュー：量的側面を中心に

橋本智也（京都光華女子大学）

P5 授業・研修でどのように映画を活用できるのか？

小林忠資（愛媛大学）

P6 高等学校と短期大学の連携事業における保育基礎講座と保育体験の取組み

新川朋子（大阪千代田短期大学）

P7 ケプラーの法則と潮汐現象の理解

三浦裕一（名古屋大学）/古澤彰浩/中村泰之

P8 IRの実質化とその可能性に関する考察

白石哲也（清泉女子大学）

P9 大学生の学習行動の変容～国立N大学生への継続調査（3年目）～

稲垣太一（金城学院高等学校）

P10 外国人留学生の日本就職に関わる法整備状況について

塚田麻美（愛知大学）

P11 初年次教育における学生相談活動を通じた新入生の包括的支援

佐藤枝里（中部大学）

P12 学生に活用されるシラバスのあり方

西原香保里（愛知みずほ大学短期大学部）/水野早苗/澤内久仁江/大塚知津子

P13 九州産業大学における高大接続の取組事例

一ノ瀬大一（九州産業大学）

P14 選ぶ自由のある学習から学生を育てる－「入学前教育」と「初年次教育」での試み－

牧恵子（愛知教育大学）/井上研/小野純一/松島潤/佐久間典子/浅井瑞希

P15 認証評価を通じた教育改善の取組状況の分析－第2サイクルにおける改善機能に着目して－

高橋望（大学評価・学位授与機構）/渋谷進/野田文香

P16 アクティブラーニングの全学的展開への取組み

伊藤圭一（豊橋創造大学短期大学部）

2017年のポスター発表一覧

P1	教科言語統合型学習 CLIL による大学教育グローバル化の推進 中西徹（就実大学）/ローレンスダンテ/林俊克/安久津太一/小田奈緒美/山崎勤/鄭雁南/野村照代
P2	SD 勉強会の実践—その課題と展望— 野村照代（就実大学）/神原亜紀子/新通克啓/小崎祥兵/薬師寺瞳/大下洋一/岡純也/落合聡史/川上美歩/岸本圭子/松原正充
P3	学科オリジナル手帳の開発とその効果 伊藤征嗣（広島工業大学）/小西智久/岡浩平/内藤望
P4	星ヶ丘三越デバ地下マップの作成を通じた産学連携による社会人基礎力育成 水野英雄（椙山女学園大学）/長谷川陽菜/渡邊彩加
P5	名古屋大学アルバイト小史 藤井利紀（名古屋大学）
P6	地域資源を活用した学部横断的 PBL 型授業プログラムの開発と実践 大前慶和（鹿児島大学）/井倉洋二/酒井佑輔
P7	子どもと家庭を支援する実習施設・機関の実践者と養成校の研究者による学び合い 新川泰弘（関西福祉科学大学）
P8	卒業生・就職先質問紙調査における大学教育に対する評価—自由記述に関する分析に焦点をあてて— 山本裕子（三重大学）/横矢祥代/守山紗弥加/中西良文
P9	学生生活状況調査を用いた IR の試み—経済状況に関する項目を中心に— 東岡達也（名古屋大学）
P10	中国の大学教育の思想指導における実践活動の位置付けと役割 呉嬌（名古屋大学）
P11	研究志向型カリキュラムの構築に向けて：研究活動や探究活動を用いた教育手法の検討 久保田祐歌（三重大学）
P12	学習行動調査データを用いた女子大学ベンチマーク 橋本智也（京都光華女子大学）/白石哲也
P13	教養教育における理系学生のための科学リテラシーと社会リテラシー—アクティブ・ラーニングとの関連で— 内山弘美（大学非常勤講師）/久保田真理/西村秀雄/立川明
P14	テキスト解析によるインターンシップ参加学生の意識変化計測 山門正宜（名古屋産業大学）/石橋健一
P15	保育学生の保育実習以外の保育体験を活用した保育者養成教育 新川朋子（大阪千代田短期大学）

2018 年のポスター発表一覧

P1	動画を活用した新 CHUKYO MaNaBo（e-ラーニングシステム）利用促進の取り組み 林瑞希（中京大学）/山本純平/満田清恵
P2	アクティブラーニングを用いた高校出向講義 伊藤圭一（豊橋創造大学短期大学部）
P3	ミスプリントを活用した情報センターサービスの発信力向上に向けた取り組み 満田清恵（中京大学）/森純菜
P4	広げよう！活用しよう！学生と創る自習スペース 鷺見恵美（名城大学）
P5	なぜ大学生の家庭教師アルバイトは衰退したのか—東京大学と名古屋大学の事例から—

	藤井利紀（名古屋大学）
P6	キャリア講座を通じた主体的学びの達成と社会人基礎力の育成 野村照代（就実大学）
P7	ICT教育支援ルームにおける学生サポートスタッフの取り組み 尾崎拓郎（大阪教育大学）/竹本育未/中村愛/川畑結央
P8	大学生の学習行動の変容～国立N大学生への継続調査（5年目）～ 稲垣太一（金城学院高等学校）
P9	鹿児島大学の教育戦略と学部横断型「地域人材育成プラットフォーム」 平井一臣（鹿児島大学）/大前慶和/出口英樹/伊藤奈賀子/酒井佑輔
P10	金沢大学における大学の自律的な改善活動を実現するFD/SDを牽引する研修担当人材育成の実践 上島洋佑（金沢大学）
P11	質保証時代における修学支援の課題と方向性－教員免許取得コースを事例とした－考察－ 中村章二（愛知教育大学）
P12	学生視点を活かしたより良い履修環境に向けた取り組み 中根大雅（中京大学）
P13	学習履歴データを用いた大学生の意識変化計測 山門正宜（名古屋産業大学）
P14	能動的な学びを促す大学の授業要因とは何か－キャリア科目におけるリアクションペーパー分析を通して－ 菊池美由紀（名古屋大学）/須田昂宏/丹下悠史/村上恭子
P15	大学でサイエンスコミュニケーションは成立するか－大学における新しい業務の組織的基盤を探る－ 東岡達也（名古屋大学）
P16	地域子育て支援施設実践者と養成校研究者の協議による地域子育て支援講座のフォローアップ 新川泰弘（関西福祉科学大学）
P17	日本人大学生の海外留学促進の政策過程 太田知彩（名古屋大学）

2019年のポスター発表一覧

P1	日本版コモンデータセット(CDS)構築の試み 荒木俊博（淑徳大学）/齋藤渉/上島洋佑
P2	新設ラーニング・commonsにおけるラーニング・アシスタントの育成 木原宏子（同志社大学）
P3	多面的・総合的な評価に関する高校の取り組みと教科毎の評価の観点 宮下伊吉（三重大学）
P4	マスメディアからの調査依頼に対する大学側の意識 近藤直幸（高千穂大学）/藤原僚平
P5	中国近代とアメリカ留学－米中における学生の国際移動－ 山下大喜（名古屋大学）
P6	現職中高教員のより効果的な再教育方法とオンライン研修モデルの模索－英語教育における試み 松本佳穂子（東海大学）
P7	林業大学校の学校種(別)と学生の属性 小川高広（名古屋大学）
P8	発表取りやめ

P9	教職課程コアカリキュラムにおける実践的指導力と学生の学び 菊地原守（名古屋大学）
P10	大学における情報公表と入試広報の在り方について 武藤英幸（名古屋大学）/丸山和昭
P11	授業とラーニングコモンズにおける人的支援サービスの連携：クラウド活用促進およびライティング支援を中心に 和気尚美（三重大学）/森本尚之/正路真一/石田修二/佐藤明知
P12	キャリア科目に対する文系学生の評価—入試難易度の違いに注目して— 菊池美由紀（名古屋大学）
P13	PBL 型授業を対象とした地域志向型ルーブリックの実践 原田幸子（三重大学）/山本裕子/黄文哲/富樫健二
P14	卒業生・就職先調査による大学のカリキュラム評価の試み：経年比較分析をもとにして 山本裕子（三重大学）/守山紗弥加/中西良文/横矢祥代
P15	国内外における大学の科目ナンバリング・システムに関する利点と課題 正路真一（三重大学）/守山紗弥加/山本裕子/和気尚美
P16	学生視点を活かした新入生向けガイドブックの見直し 満田清恵（中京大学）/森純菜/三森梨央/今井楓/金澤博子

2021 年のポスター発表一覧

P1	社会福祉系学部で育成すべきコンピテンシーとは—専門職性との関連において 久保田祐歌（関西福祉科学大学）/池田史子
P2	卒業時調査と教学データの統合による学修成果の可視化 横松力（東京薬科大学）/矢野眞和/日下田岳史
P3	大学生のプレゼンテーションへの苦手意識を改善するための授業実践 佐瀬竜一（常葉大学）
P4	オンライン TA 研修の実施およびフォーカスグループインタビューを通じた研修設計改善の取組 和気尚美（三重大学）/宮下伊吉
P5	「静岡大学ステューデント・アンバサダープログラム」の取組 一般学生・留学生によるオンライン国際教育プログラムの成果と課題 藤井基貴（静岡大学）/小林静乃/忍頼子/木村大輔
P6	「静岡大学グローバル・リーダーシッププログラム」の取組 高大連携によるオンライン国際教育プログラムの成果と課題 松田紀子（静岡大学）/小林静乃/忍頼子/栗林文
P7	地域に貢献する若者を育てる支援 伊藤圭一（豊橋創造大学）
P8	大学生の学修支援におけるダブルアドバイザー制度導入の成果と課題 中嶋克成（徳山大学）/寺田篤史/大阪遊
P9	中央集権型 IR から分権型 IR へのパラダイムシフト 田尻慎太郎（北陸大学）/堀川靖子
P10	卒業生の満足度—四日市大学卒業生への調査から— 齋藤信（鈴鹿大学）/三田泰雅
P11	SD の義務化前・義務化後における実施内容の比較-自己点検・評価報告書を用いた計量テキスト分析- 藤本正己（徳島文理大学）
P12	英国大学事務職員の組織アイデンティティとキャリア・ステージ

松村彩子（名古屋大学）

P13 国立大学職員のキャリア形成と人材育成策

武藤英幸（名古屋大学）

P14 林業大学校で教える講師の属性と授業科目との関連性

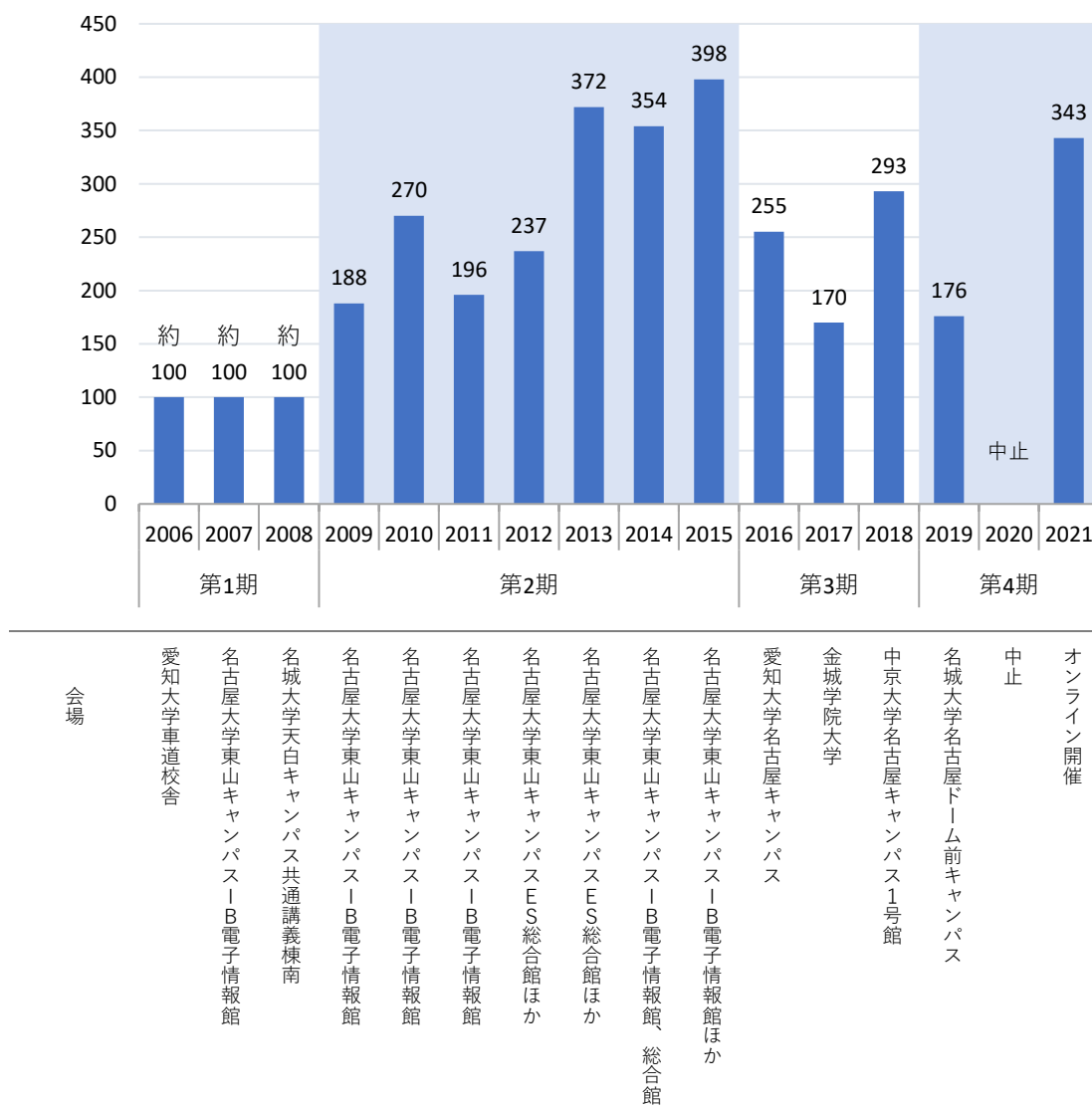
小川高広（名古屋大学）

P15 図表でみる医学部のジェンダー問題-UNESCO,OECD,及び政府統計のデータを中心に-

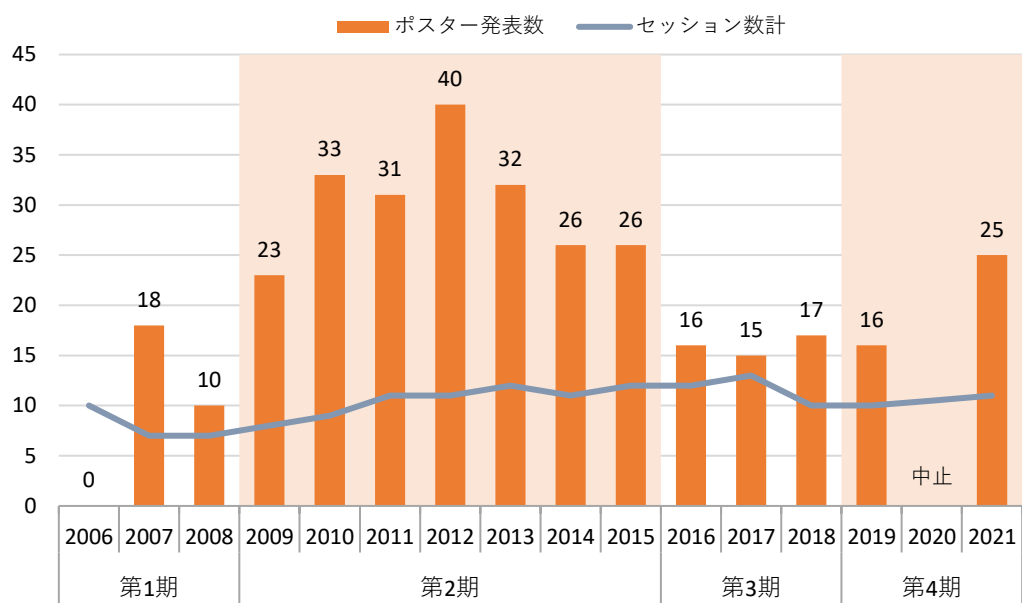
丸山和昭（名古屋大学）/岡田亜弥/山本英子/浦田真由/古藪真紀子/郷通子

グラフで見る東海フォーラム

○参加人数の変遷



○セッション数とポスター発表数の変遷



基調講演	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パネルD	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
分科会	8	4	4	5	6	8	7	9	8	8	10	11	8	7	8
ポスターS	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ミニWS	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	企 1	0	0	0	特 1	企 1
セッション数計	10	7	7	8	9	11	11	12	11	12	12	13	10	10	11

パネルD：パネルディスカッション、分科会等：分科会またはセッション、ポスターS：ポスターセッション
 ミニWS：ミニワークショップ、その他：企業展示（企）、特別企画（特）

執筆者一覧

池田 輝政 U&C ストラテジー 代表、愛知江南学園 理事
大津 史子 名城大学 薬学部 教授
北 栄輔 名古屋大学 高等教育研究センター センター長／情報学研究科 教授
齋藤 芳子 名古屋大学 高等教育研究センター 助教
東岡 達也 名古屋大学 高等教育研究センター 研究員
中島 英博 立命館大学 教育開発推進機構 教授
夏目 達也 名古屋大学 名誉教授
藤井 利紀 名古屋大学 高等教育研究センター 研究員 (2022.3.31 まで)

大学教育改革フォーラム in 東海の軌跡：2006-2021〔オンライン版〕

2022年4月1日

編集 名古屋大学高等教育研究センター
大学教育改革フォーラム in 東海 実行委員会
発行 名古屋大学高等教育研究センター [質保証を担う中核教職員能力開発拠点]
〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Tel 052-789-5696
URL <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp>

ISBN 978-4-9912572-0-9

©2022 名古屋大学高等教育研究センター

in 東海 フォーラム 大学教育改革 2007

開催日時：2007年3月10日（土）10:00-17:40

場所：名古屋大学IB電子情報館

（地下鉄名城線名古屋大学駅3番出口より徒歩1分）



プログラム

10:00 開会の辞

10:10 基調講演

黒木登志夫（岐阜大学学長）

11:10 セッション1

「高大連携・初年次教育」

報告者：大川正明（四日市大学）

梶木勇作（愛知淑徳大学）

中西孝徳（名城大学附属高校）

「大学職員の専門性と研修」

報告者：河野千恵（相山女学園大学）

田中 岳（京都精華大学）

山本 明（愛知大学）

13:00 ポスターセッション

14:30 セッション2

「今求められるキャリア支援とは」

報告者：上野 徹（名古屋市立大学）

所 智子（東邦学園大学）

服部真千代（名古屋大学大学院）

「FDが形成すべき能力とは」

報告者：佐藤元彦（愛知大学）

中島英博（三重大学）

齋藤芳子（名古屋大学）

16:10 パネルディスカッション

「今、学生は、大学は」

司会：栗原 裕（愛知大学）

パネリスト：池田輝政（名城大学）

大門正幸（中部大学）

近田政博（名古屋大学）

18:00 軽食パーティー

※どなたでも参加いただけます。

ポスター発表お申し込みおよび事前参加登録については裏面をご覧ください。

大学教育改革フォーラムin東海2007実行委員会
委員長 夏目達也（名古屋大学）

名古屋大学高等教育研究センター
〒464-8601 名古屋市中種区不老町
電話：052-789-5696
FAX：052-789-5695
e-mail：info@cshe.nagoya-u.ac.jp

フォーラムウェブサイト

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tf2007/>



ポスターセッション発表申込方法

本フォーラムでは、大学教育の改革に資するような研究や取り組みについてのポスター発表を募集しております。
先着30件となっておりますのでお早めにお申し込みください。

◇ポスター発表概要

- ・ポスターサイズ：縦1800mm×横950mm以内

◇ポスター発表申込方法

1月31日（水）までに以下の5項目を下記のe-mailにてお知らせください。

- ・ご氏名
- ・ご所属
- ・ご連絡先（メール、電話、FAX）
- ・発表タイトル
- ・発表要旨 [300字以内でお書き下さい]

事前登録方法

準備の都合上、事前登録をお願いしております。
お弁当（お茶付）のご注文も承っております。
昼にポスターセッションがありますので、ご利用をおすすめします。

1. 参加費+軽食パーティー費+昼食代（下段参照）の合計額を2月28日（水）までに下記の郵便振替口座宛てにお振り込みください。

- ・参加費 2,000円（但し、名古屋大学関係者は1,000円）
- ・軽食パーティー 2,000円
- ・お弁当+お茶 800円

通信欄には内訳のご記入をお願いいたします。
（例：参加費+軽食パーティー費=4,000円）
振込手数料が発生いたしますが、ご容赦ください。

- ・口座名：大学教育改革フォーラム
- ・口座番号：00820-9-133963

2. 振込が済みましたら、2月28日（水）までに下記フォームにご記入の上、下記のFAX番号にてお知らせください。e-mailにてフォームにある8項目をお知らせいただいても結構です。

事前参加申込フォーム

ご氏名：

ご所属：

ご住所：

ご連絡先（メール、電話、FAX）：

懇親会へのご参加（参加、不参加）

お弁当+お茶（要、不要）

参加費等振替日（ 月 日）

領収書（要、不要）

in 東海 2008 大学教育改革フォーラム

開催日時: 2008年3月1日(土) 10:00~17:50

場所: 名城大学 天白キャンパス 共通講義棟南

(地下鉄鶴舞線塩釜口1番出口より徒歩約8分)

※当日お車でのご来校はご遠慮願います。

プログラム

- 10:00 開会の辞
池田 輝政 (名城大学副学長・常勤理事)
- 10:00 記念講演
高橋 榮明 (新潟医療大学学長)
「新潟医療福祉大学・新潟総合学園・新潟からの発信」
- 11:10 セッション1(午前の部)
「高大連携プログラム」
報告者: 栗原 裕 (愛知大学)
藤田 高弘
(名古屋大学教育学部附属中高等学校)
高尾 智士 (河合塾)
座長: 浦田 広朗 (名城大学)
- 「職員人材開発支援」
報告者: 上西 浩司 (豊橋技術科学大学)
八木 隆明 (愛知大学)
出口 博也 (名古屋学院大学)
難波 輝吉 (名城大学)
座長: 中井 俊樹 (名古屋大学)
- 13:00 ポスターセッション
- 14:30 セッション2(午後の部)
「学生キャリア開発支援」
報告者: 吉井 優貴 (愛知淑徳大学)
伊藤 彰茂 (愛知みずほ大学)
井上 法保 (名城大学)
座長: 夏目 達也 (名古屋大学)
- 「初年次教育プログラム」
報告者: 小柳津 久美子 (キャリア工房)
所 智子 (愛知東邦大学)
下野 正俊 (愛知大学)
座長: 中島 英博 (三重大)
- 挨拶 下山 宏 (名城大学学長)
- 16:20 パネルディスカッション
「大学の経営力と教育力」
総合司会: 栗原 裕 (愛知大学経済学部長)
パネリスト: 佐藤 元彦 (愛知大学副学長・常務理事)
篠田 道夫 (日本福祉大学常任理事)
池田 輝政 (名城大学副学長・常勤理事)

18:00 懇親会

※どなたでもご参加いただけます。

ポスター発表お申し込みおよび事前参加登録については裏面をご覧ください。

大学教育改革フォーラム in 東海 2008 実行委員会
委員長 池田 輝政 (名城大学)

名城大学 大学教育開発センター
〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501
電話: 052-838-2032
FAX: 052-833-5230
E-Mail: edcenter@ccmails.meijo-u.ac.jp



ポスターセッション発表申込方法

本フォーラムでは、大学教育の改革に資するような研究や取り組みについてのポスター発表を募集しております。先着 15 件となっておりますのでお早めにお申し込みください。

■ ポスター発表概要

- ・ポスターサイズ：縦 1800mm×横 950mm 以内

■ ポスター発表申込方法

2月22日（金）までに以下の5項目を下記のE-mailにてお知らせください。

- ・ご氏名
- ・ご所属
- ・ご連絡先（メール、電話、FAX）
- ・発表タイトル
- ・発表趣旨〔300字以内でお書きください〕

事前登録方法

準備の都合上、事前登録をお願いしております。

1. 参加費、懇親会費（下段参照）の合計額を2月22日（水）までに下記の郵便振替口座宛にお振り込みください。

- ・参加費 2,000円
- ・懇親会費 2,000円

通信欄には内訳のご記入をお願いいたします。

（例：参加費＋懇親会費＝4,000円）

振込手数料が発生いたしますが、ご容赦ください。

- ・口座名：大学教育改革フォーラム
- ・口座番号：00820-9-133963

2. 振り込みが済みましたら、2月22日（水）までに下記フォームにご記入の上、下記のFAX番号にてお知らせください。E-mailにてフォームにある7項目をお知らせいただいても結構です。

事前参加申し込みフォーム

ご氏名： _____

ご所属： _____

ご住所： _____

ご連絡先（メール、電話、FAX） _____

懇親会へのご参加（参加 ・ 不参加） 参加費等振込日（ 月 日）

領収書（要 ・ 不要）

《名城大学 大学教育開発センター》

FAX：052-833-5230

E-mail：edcenter@ccmails.meijo-u.ac.jp

大学教育改革

このフォーラムは、各大学の現場で教育改善に取り組んでいる教員・職員のための草の根交流会です。

フォーラム

日時 2009年3月7日(土) 10:00~17:50

会場 名古屋大学IB電子情報館
(地下鉄名城線名古屋大学駅3番出口より徒歩1分)

in 東海

主催 大学教育改革フォーラム in 東海 2009 実行委員会
FD・SDコンソーシアム名古屋

2009

フォーラムウェブサイト

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tf2009>

どなたでもご参加いただけます

ポスターセッション発表申込締切日
2009年1月30日(金)

事前参加登録締切日
2009年2月13日(金)

ポスター発表お申し込みおよび事前参加登録については裏面をご覧ください。

9:00 受付

10:10

東海地域の大学を元気にする教育改革とは

座長: ハンス ユーゲン・マルクス (南山学園理事長)

11:10

学習意欲を高める授業上の創意工夫

座長: 栗原 裕 (愛知大学)

大学認証評価への対応

座長: 戸田山和久 (名古屋大学)

13:00

14:10

高校は大学をどう見ているか

座長: 植田健男

(名古屋大学教育学部
附属中・高等学校)

FD・SDのノウハウをどう共有するか

座長: 西田幹夫 (名城大学)

ミニレクチャー 司会: 中井俊樹 (名古屋大学)

① 学生の悩みにどう対応するか

講師: 若山 隆 (日本福祉大学)

② 留学生の悩みにどう対応するか

講師: 田中京子 (名古屋大学)

16:00

授業時間外の学習をどう支援するか

司会: 周藤芳幸 (名古屋大学)

パネリスト: 井下 理 (慶應義塾大学)

神崎裕子 (愛知淑徳大学)

山下啓司 (名古屋工業大学)

18:00

事務局 (大会についてのお問合せ先)

名古屋大学高等教育研究センター

TEL: 052-789-5696 FAX: 052-789-5695

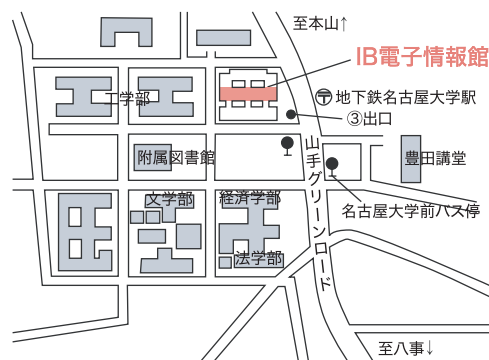
e-mail: info@cshe.nagoya-u.ac.jp

事前参加登録・ポスターセッション発表申込
に関するお問合せ先

株式会社 コングレ

FAX: 052-950-3370 e-mail: tf2009@congre.co.jp

会場案内図



ポスターセッション発表申込方法

本フォーラムでは、大学教育改革に関するさまざまな取り組みについてのポスター発表を募集しております。実践事例、調査報告、研究開発など、どんな形態でもけっこうです。先着40件となっておりますのでお早めにお申し込みください。

●ポスター発表概要

ポスターサイズ 縦1800mm×横950mm以内

●ポスター発表申込方法

2009年1月30日(金)までに以下の5項目をe-mailにてお知らせください。

・ご氏名 ・ご所属 ・ご連絡先(メール、電話、FAX) ・発表タイトル ・発表要旨(300字以内でお書きください)

ポスター発表申込先 e-mail tf2009@congre.co.jp

※フォーラムのウェブサイトより申込専用フォームがダウンロードできます。 URL: <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tf2009>

事前参加登録の方法

準備の都合上、事前参加登録をお願いしております。**参加費は無料**です。

セッション報告者、パネリスト、座長、レクチャー、ポスター発表をされる方は参加登録不要です。

申し込み手順

① 下記フォームに必要事項を記載いただき、2009年2月13日(金)までに、FAXでお送りいただくか、e-mailにて下記フォームにある8項目をお知らせください。

② ポスターセッションにあわせて昼食、軽食パーティーもご用意しております。ぜひご利用ください。

料金	昼食(お弁当+お茶) 1,000円(事前申込のみ)
	軽食パーティー 2,000円

昼食、軽食パーティーを申し込まれた方は、合計額を2009年2月13日(金)までに下記の郵便振替口座宛にお振込みください。
※振込手数料が発生いたしますが、ご容赦ください。

③ 通信欄に内訳のご記入をお願いいたします。 **郵便振替口座** **大学教育改革フォーラム**

例 昼食費+軽食パーティー費=3,000円 **口座番号** **00820-9-133963**

※お電話での登録はお受けできません。
※振込みの控えは必ずお手元に保存ください。領収書は当日お渡しします。

事前参加申込フォーム

FAX 052-950-3370 **e-mail** tf2009@congre.co.jp **締切** 2009年2月13日(金)

郵便番号			ご住所		
ご氏名(ふりがな)			ご連絡先		
			TEL	-	-
			FAX	-	-
			e-mail	@	
昼食(お弁当+お茶) 1,000円		軽食パーティーへのご参加 2,000円		領収書	
要	不要	参加	不参加	要	不要
					振込日
					月
					日

ポスターセッション、事前参加申し込みに関するお問合せ

大学教育改革フォーラム in 東海 2009 運営事務局 株式会社 コングレ 担当: 神谷
FAX: 052-950-3370 e-mail: tf2009@congre.co.jp URL: <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tf2009>

大学教育改革フォーラム in 東海 2010

このフォーラムは、各大学の現場で教育改革に取り組んでいる教員・職員のための草の根交流会です。

フォーラムウェブサイト

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tf2010>

参加費無料。申込不要。どなたでもご参加いただけます。

ポスターセッション募集中(詳しくは裏面をご覧ください)

日時

2010年3月13日(土)
10:00~17:50

会場

名古屋大学IB電子情報館

(地下鉄名城線名古屋大学駅3番出口より徒歩1分)

主催

大学教育改革フォーラム in 東海 2010 実行委員会
FD・SDコンソーシアム名古屋

基調講演

グローバル化の中の大学教育改革 金子 元久 (東京大学 大学院教育学研究科 教授)

パネルディスカッション

大学の学習支援における図書館の可能性

司会 木俣 元一 (名古屋大学 高等教育研究センター長)

パネリスト 野末 俊比古 (青山学院大学 教育人間科学部 准教授)

長澤 多代 (三重大学 高等教育創造開発センター 准教授)

桂 三幸 (愛知大学 豊橋図書館事務課 係長)

事務局 (フォーラムについての問い合わせ先)

名古屋大学高等教育研究センター

TEL : 052-789-5696

FAX : 052-789-5695

e-mail : info@cshe.nagoya-u.ac.jp

ポスターセッション申込に関する問い合わせ先

株式会社 コングレ

FAX : 052-950-3370

e-mail : tf2010@congre.co.jp

会場案内図



プログラム

※予告なく変更することがあります

10:00 開式の辞

10:10 基調講演 「グローバル化の中の大学教育改革」
金子 元久(東京大学 大学院教育学研究科 教授)

11:10

セッション1

「GP事業の取り組みから得たもの」

座長

山本 忠弘 (名城大学 大学教育開発センター長)

報告者

斎藤 真左樹 (日本福祉大学 事務局長)
大武 貞光 (名城大学 大学教育開発センター 課長)
添田 久美子 (愛知教育大学 准教授)

セッション2

「ネイティブ教員が感じる大学教育の課題」

座長

照本 祥敬 (中京大学 国際教養学部 教授)

報告者

張 勤 (中京大学 国際教養学部 教授)
ニーナ・ペトリシェヴァ (中京大学 国際教養学部 講師)
ジェームズ・ダンジェロ(中京大学 国際英語学部 教授)

セッション3

「学生の書く力をどのように伸ばすか」

座長

久保田 祐歌 (FD・SDコンソーシアム名古屋 研究員)

報告者

宮地 朝子(名古屋大学 大学院文学研究科 准教授)
櫻井 次郎(名古屋大学 大学院国際開発研究科 助教)
伊藤 奈賀子(岐阜女子大学 文化創造学部 准教授)

13:00 昼食&ポスターセッション

14:10

セッション4

「アメリカと日本におけるFD・SDの現状と課題」

座長

日野水 憲 (南山大学 外国語学部 准教授)

報告者

金山 弥平 (名古屋大学 大学院文学研究科 教授)
野崎 能伸 (名城大学 学務センター 主査)
寺岡 寛 (中京大学 経営学部 教授)

セッション5

「学士課程における科学基礎教育」

座長

千代 勝実 (名古屋大学 教養教育院 講師)

報告者

三浦 裕一 (名古屋大学 大学院理学研究科 准教授)
川浦 佐知子 (南山大学 人文学部 准教授)
川勝 博 (名城大学 総合数理教育センター長)

セッション6

「大学院で大学職員のキャリアアップをめざす」

座長

伊藤 彰浩 (名古屋大学 大学院教育発達科学研究科 教授)

報告者

池田 輝政(名城大学 副学長)
増田 貴治(愛知東邦大学 理事・事務局長)
室 敬之(星城大学 事務局長)

16:00 パネルディスカッション

「大学の学習支援における図書館の可能性」

司会

木俣 元一 (名古屋大学 高等教育研究センター長)

パネリスト

野末 俊比古 (青山学院大学 教育人間科学部 准教授)
長澤 多代 (三重大学 高等教育創造開発センター 准教授)
桂 三幸 (愛知大学 豊橋図書館事務課 係長)

18:00 軽食パーティー&ポスターセッション

ポスターセッション申込

本フォーラムでは、大学教育の改革に資するような研究や取り組みについてのポスター発表を募集しております。先着40件となっておりますのでお早めにお申し込みください。

ポスター発表概要

ポスターサイズ：縦1800mm×横950mm以内

ポスター発表申込方法

- ・フォーラムウェブサイトからオンライン登録をお願いします。
- ・ポスター発表者にはお弁当をご用意いたします。

申込締切日 **2月15日(月)**

フォーラムウェブサイト <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tf2010>
※オンライン登録時には発表タイトル、発表要旨(300字以内)の入力が必要です。

ポスターセッションに関する問い合わせ先

株式会社コングレ 担当：神谷

FAX：052-950-3370 e-mail：tf2010@congre.co.jp

ご案内

昼食について

会場でのお弁当販売はありません。
北部生協食堂等をご利用ください。

軽食パーティーのご案内

参加費は2,000円です。事前登録はありませんので、当日、受付にてお申し込みください。皆様のご参加をお待ちしております。

日時

2011年3月12日(土)
10:00~17:50

会場

名古屋大学IB電子情報館
(地下鉄名古屋大学駅 西地区連絡通路出入口(3番出口方面)より0分)

主催

大学教育改革フォーラム in 東海 2011 実行委員会
FD・SDコンソーシアム名古屋

後援

大学行政管理学会中部・北陸地区研究会

このフォーラムは、各大学の現場で教育改革に取り組んでいる教員・職員のための草の根交流会です。

大学教育 改革フォーラム in東海2011

参加費無料。申込不要。
どなたでもご参加いただけます。

ポスター発表募集中
(詳しくは裏面をご覧ください)

フォーラムウェブサイト
<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tf2011>

基調講演

「学生の学びを支援する大学改革」
小笠原 正明
(筑波大学特任教授/大学教育学会会長)

パネルディスカッション

大学におけるキャリア教育の課題と可能性

司会 夏目 達也 (名古屋大学 高等教育研究センター 教授)
パネリスト 飯吉 弘子 (大阪市立大学 大学教育研究センター 准教授)
犬飼 斉 (名城大学 キャリアセンター 課長)
加藤 容子 (椋山女学園大学 人間関係学部 准教授)

事務局

(フォーラムについての
問い合わせ先)

名古屋大学高等教育研究センター
TEL: 052-789-5696
FAX: 052-789-5695
e-mail: info@cshe.nagoya-u.ac.jp

ポスター発表申込に関する
問い合わせ先

株式会社 コングレ
FAX: 052-950-3370
e-mail: tf2011@congre.co.jp

会場案内図



プログラム

10:00 開式の辞

10:10 基調講演 「学生の学びを支援する大学改革」 小笠原 正明(筑波大学特任教授/大学教育学会会長)

11:10

「地域のために
大学ができること」

座長 栗原 裕
(愛知大学経済学部)

報告者

鶴岡 宏成(愛知学院大学経営学部)
杉浦 礼子(高田短期大学オフィス情報学科)
千頭 聡(日本福祉大学大学院国際社会開発研究科)
水野 晶夫(名古屋学院大学経済学部)

「大学職員の育成
プログラムを考える」

座長 高木 志郎
(名城大学大学教育開発センター)

報告者

林 透(北陸先端科学技術大学院大学
大学院教育イニシアチブセンター/大学コンソーシアム
石川 SD企画委員会副委員長)
檜森 茂樹(学校法人名城大学経営本部総務部)
村上 孝弘(龍谷大学図書館事務部)

「『市民性』を
育む教育プログラム」

座長 黒田 光太郎
(名城大学学長室)

報告者

行本 正雄(中部大学工学部)
原田 正樹(日本福祉大学サービスマニエーションセンター/
社会福祉学部)
戸田山 和久(名古屋大学大学院情報科学研究科/
情報文化学部)

「図書館を通じた
アカデミックスキルの育成」

座長 木俣 元一
(名古屋大学高等教育研究センター)

報告者

塩村 耕(名古屋大学大学院文学研究科)
紅露 剛(南山大学図書館)
会場 (このセッションのみ別会場です。)
名古屋大学中央図書館2階 ラーニングcommons

13:00 昼食&ポスターセッション

14:10

「学生の視点から見えてくる大学
-日本人学生、留学生は日本の
大学をどう見ているか」

座長 照本 祥敬
(中京大学国際教養学部)

報告者

パネルディスカッション① 日本人学生
パネルディスカッション② 外国人留学生

「大学職員研究の現在」

座長 中井 俊樹
(名古屋大学高等教育研究センター)

報告者

西浦 明倫(立命館大学総合理工学院)
上西 浩司(鳥羽商船高等専門学校)
中島 英博(名城大学大学・学校づくり研究科)

「文学教育のおもしろさ
とむずかしさ」

座長 日比 嘉高
(名古屋大学大学院文学研究科)

報告者

高木 信(相模女子大学学芸学部)
竹内 瑞穂(愛知淑徳大学文学部)
西原 志保(名古屋大学高等教育研究センター)

「大学教育の中の大学博物館」

座長 高橋 貴
(愛知大学大学院国際
コミュニケーション研究科)

報告者

黒沢 浩(南山大学人文学部)
吉田 英一(名古屋大学博物館)
緒方 泉(九州産業大学美術館)

16:00 パネルディスカッション 「大学におけるキャリア教育の課題と可能性」

司会 夏目 達也(名古屋大学 高等教育研究センター 教授)

パネリスト 飯吉 弘子(大阪市立大学 大学教育研究センター 准教授)
犬飼 齊(名城大学 キャリアセンター 課長)
加藤 容子(椋山女学園大学 人間関係学部 准教授)

18:00 軽食パーティー&ポスターセッション

ポスター発表申込

本フォーラムでは、大学教育の改革に資するような研究や取り組みについてのポスター発表を募集しております。先着40件となっておりますので、お早めにお申し込みください。

ポスター発表概要

ポスターサイズ：縦1800mm×横950mm以内

ポスター発表申込方法

- ・フォーラムウェブサイトからオンライン登録をお願いします。
- ・ポスター発表者にはお弁当をご用意いたします。

申込締切日 2月7日(月)

フォーラムウェブサイト <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tf2011>
※オンライン登録時には発表タイトル、発表要旨(300字以内)の入力が必要です。

ポスター発表に関する問い合わせ先

株式会社コングレ 担当：神谷・大里
FAX：052-950-3370 e-mail：tf2011@congre.co.jp

ご案内

昼食について

会場でのお弁当販売はありません。
北部生協食堂等をご利用ください。

軽食パーティーのご案内

参加費は2,000円です。事前登録はありませんので、
当日、受付にてお申し込みください。皆様のご参加を
お待ちしております。

基調講演

震災後の日本社会と大学教育

講演者：野家啓一（東北大学理事）

ポスターセッション
+ミニワークショップ

ポスター発表
募集中!

2012.2.7(火)締切

お申し込みはWebから

オーラルセッション

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tf2012/>

パネルディスカッション

学生に質の高い体験をどのように与えるか

パネル：大島まり（東京大学）
宮川正裕（中京大学）
岡多枝子（日本福祉大学）
司会：中井俊樹（名古屋大学）

交流会

大学教育改革フォーラム in 東海2012

大学教育について、一緒に議論をし、連携、連帯を深め、質の高い大学教育をこの地区に実現しませんか。大学教育をよりよくしたい、という意志や希望をお持ちの方々のご参集をお待ちしております。

2012年3月3日[土] 10:00-17:00

場所：名古屋大学東山キャンパス ES総合館ほか **事前参加登録 不要** **参加費 無料**

主催：大学教育改革フォーラムin東海2012実行委員会、FD・SDコンソーシアム名古屋、名古屋大学高等教育研究センター[FD・SD教育改善支援拠点]

基調講演 10:10

震災後の日本社会と大学教育

講演者：野家啓一(東北大学理事)

オーラルセッション 11:10 / 14:00

I 自律的な学びを促す学習環境デザイン

座長：太田達也(南山大学外国語学部)
報告者：渡辺義和(南山大学総合政策学部/国際教育センター)
森 朋子(鳥根大学教育開発センター)
境 一三(慶應義塾大学経済学部/外国語教育研究センター)

学習者中心の理数系授業を創るために

座長：土屋孝文(中京大学情報理工学部)
報告者：白水 始(中京大学情報理工学部)
何森 仁(神奈川大学工学部)
益川弘如(静岡大学大学院教育学研究科)
近藤秀樹(九州工業大学大学院情報工学研究科)

留学生受け入れにおける危機管理

座長：近田政博(名古屋大学高等教育研究センター)
報告者：榎並岳史(新潟大学研究支援部国際課)
山口博史(名古屋大学大学院情報科学研究科)

地域間交流・連携で育む大学職員力

座長：加藤史征(名古屋大学総務部総務課)
報告者：松村典彦(金沢大学学長秘書室)
小山敬史(名古屋大学医学部総務課)

II 改めて考える教養教育改革

座長：宮嶋秀光(名城大学大学教育開発センター)
報告者：安村仁志(中京大学副学長/国際教養学部)
中 裕史(南山大学外国語学部/教務部)
森川 章(名城大学副学長/経営学部)

大学行政管理学会(JUAM)を通じた大学職員の学び、成長

座長：林 透(北陸地区/北陸先端科学技術大学院大学)
報告者：稲垣智成(中部地区/南山大学)
柴田真由美(北陸地区/金城大学)
武藤正美(常務理事/名城大学)

図書館における学習支援—ラーニングコモンズの活用

座長：木俣元一(名古屋大学大学院文学研究科/高等教育研究センター)
報告者：加藤信哉(名古屋大学附属図書館事務部)
指定討論者：松林正己(中部大学総合学術研究院出版室)

ポスターセッション+ミニワークショップ 12:30 **ポスター発表 募集中!**

◎ポスターセッション 発表内容：本フォーラムの趣旨に沿った内容の実践または調査研究の報告
申込方法：ウェブサイトよりお申し込みください
<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tf2012/>
申込締切：2012年2月7日(火)

◎ミニワークショップ **現象と概念をむすぶ—物理学講義実験という挑戦**
企画：物理学講義実験研究会

パネルディスカッション 15:30

学生に質の高い体験をどのように与えるか

パネル：大島まり(東京大学生産技術研究所)
宮川正裕(中京大学総合政策学部)
岡多枝子(日本福祉大学社会福祉学部)
司会：中井俊樹(名古屋大学高等教育研究センター)

交流会 17:30

参加費：2,000円(予定) ※事前参加登録不要

大学教育 改革フォーラム in東海2012

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tf2012/>

2012.3.3[土] 10:00-17:00

プログラム

- 10:00 開会挨拶
- 10:10 基調講演
- 11:00 休憩
- 11:10 オーラルセッション I
- 12:30 ポスターセッション
+ミニワークショップ
- 14:00 オーラルセッション II
- 15:20 休憩
- 15:30 パネルディスカッション
- 16:50 閉会挨拶
- 17:00 終了
-
- 17:30 交流会

会場案内図



大学教育改革フォーラムin東海2012

実行委員会
大川 隆(南山大学)
齋藤芳子(名古屋大学) *事務局幹事
植 一也(名城大学)
夏目達也(名古屋大学) *委員長
間野益次(中京大学)

事務局
名古屋大学高等教育研究センター(担当：齋藤)
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
Tel: 052-789-5696 Fax: 052-789-5695
E-mail: info@cshe.nagoya-u.ac.jp

主催
大学教育改革フォーラムin東海2012実行委員会
FD・SDコンソーシアム名古屋
名古屋大学高等教育研究センター[FD・SD教育改善支援拠点]

大学教育改革フォーラム in東海2013

大学教育について、一緒に議論をし、連携・連帯を深め、質の高い大学教育をこの地域に実現しませんか。大学教育をよりよくしたい、という意志や希望をお持ちの方々のご参加をお待ちしております。

2013年3月2日(土) 10:00-18:30 **会場** 名古屋大学東山キャンパス ES総合館ほか
事前参加登録不要、参加費無料、情報交換会(2,000円)

プログラム(予定)

9:00 受付

10:00 開会あいさつ

10:10 基調講演
学生の主体的学びをどう促すか

川島 啓二 氏(国立教育政策研究所総括研究官)

11:10 オーラルセッションI

1 : 大学職員の
学びと実践

座長: 加藤史征 (名古屋大学)
報告者: 中元 崇 (京都大学)
満田清恵 (愛知教育大学)
檜森茂樹 (名城大学)

2 : 融合的・総合的な理系
教養教育の可能性

座長: 安田淳一郎 (岐阜大学)
報告者: 高橋 真聡 (愛知教育大学)
福士 秀人 (岐阜大学)
黒田光太郎 (名城大学)

3 : 協同学習の場としての
大学図書館

座長: 岡部幸祐 (名古屋大学)
報告者: 中田晴美 (名古屋学院大学)
次良丸章 (静岡大学)

12:30 昼食・ポスターセッション

ミニワークショップ「物理現象と概念を結ぶー講義実験という挑戦(2)」

14:00 オーラルセッションII

4 : 教務の実践的知識の共有

座長: 上西浩司 (奈良教育大学)
報告者: 辰巳早苗 (大阪樟蔭女子大学)
小野勝士 (龍谷大学)
村瀬隆彦 (佐賀大学)

5 : 大学経営と評価

座長: 室 敬之 (星城大学)
報告者: 花原大輔 (名城大学)
角谷充彦 (名古屋大学)
藤原将人 (学校法人立命館)

6 : 教養・基礎教育の設計

座長: 栗原 裕 (愛知大学)
報告者: 伊藤奈賀子 (鹿児島大学)
内田啓太郎 (関西学院大学)
久保田祐歌 (愛知教育大学)

15:30 オーラルセッションIII

7 : 課題解決型学習
の可能性

座長: 大津史子 (名城大学)
報告者: 加藤彰一 (三重大学)
山口 満 (豊橋創造大学)
川北泰伸 (同志社大学)

8 : 学生・学習支援
の現在

座長: 池田輝政 (名城大学)
報告者: 橋本 勝 (富山大学)
増田淳矢 (中京大学)
東 誠 (南山大学)

9 : 日本の大学における
IR の実践とノウハウ

座長: 藤井都百 (名古屋大学)
報告者: 藤井都百 (名古屋大学)
浅野 茂 (神戸大学)
阿部一晴 (京都光華女子大学)

17:00 情報交換会・ポスターセッション

主催: 大学教育改革フォーラムin東海2013実行委員会、名古屋大学高等教育研究センター(FD・SD教育改善支援拠点)

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/forum/tf2013/>

大学教育改革 フォーラム in 東海 2013

名古屋大学東山キャンパス
ES総合館 ほか

2013年3月2日(土) 10:00-18:30



プログラム

9:00	受付
10:00	開会あいさつ
10:10-11:00	基調講演
11:10-12:30	オーラルセッションⅠ
12:30-14:00	昼食・ポスターセッション ミニワークショップ
14:00-15:20	オーラルセッションⅡ
15:30-16:50	オーラルセッションⅢ
17:00-18:30	情報交換会・ ポスターセッション

会場案内図



事務局

名古屋大学高等教育研究センター
〒464-8601 名古屋市千種区不老町1
Tel: 052-789-5696
Fax: 052-789-5695
Email: info@cshe.nagoya-u.ac.jp

大学教育改革フォーラム

in 東海 2014

大学教育について、一緒に議論をし、連携・連帯を深め、質の高い大学教育をともに実現しませんか。大学教育をよりよくしたい、という意志や希望をお持ちの方々の参加をお待ちしております。

事前参加登録はこちらから ▶ <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/forum/tf2014>

3/8 SAT

会場 ● 名古屋大学東山キャンパス IB 電子情報館、ES 総合館
時間 ● 10:00-17:00 (情報交換会 17:00-19:00)
参加費無料 (情報交換会 2,000 円)

10:10 基調講演 (IB 電子情報館)

勉強ができる人間は立派か？大学教育が目指すべき人間像

講演者：羽田 貴史 (東北大学 高等教育開発推進センター 教授)

11:15 ポスターセッション (ES 総合館)
ミニワークショップ (ES 総合館)

ポスター発表募集中！ 2014年1月15日(水)締切
お申し込みは Web から

13:00 オーラルセッションⅠ (ES 総合館)

FDの大学間連携の実際と
その効果および課題

中村 和彦 (南山大学/座長)
耳野 健二 (京都産業大学)
亀倉 正彦 (名古屋商科大学)

企画力のある大学職員の
育成・成長と組織体制の構築

池田 輝政 (名城大学/座長)
岡田 雄介 (龍谷大学)
宇宿 悟 (関西学院大学)
鶴田 弘樹 (名城大学)

多様な大学構成員の
相互理解を目指して

—身体的障がい、発達障がい、性志向など—
坂野 尚美 (名古屋大学/座長)
古橋 忠晃 (名古屋大学)
安田 真之 (京都産業大学)
垣内 俊哉 (株式会社ミライロ)

大学教育改革における
職員の役割

則竹 輝一 (南山大学/座長)
中村 章二 (愛知教育大学)
山崎 めぐみ (創価大学)
平田 有喜宏 (同志社大学)
原 裕美 (名城大学)

15:00 オーラルセッションⅡ (ES 総合館)

学生による
FD活動の可能性

銭 佑錫 (中京大学/座長)
高橋 和 (名城大学)
花岡 美咲 (名古屋大学)
渡辺 正夫 (中京大学)

教務事務における知識・
スキルの共有及び継承

辰巳 早苗 (追手門学院大学/座長)
近村 元気 (岩手大学)
宮林 常崇 (首都大学東京)
小野 勝士 (龍谷大学)

大学生活を充実させる
ための学生支援

中川 正 (三重大学/座長)
青野 透 (金沢大学)
沖 裕貴 (立命館大学)

学生の主体的な学びを
引き出す

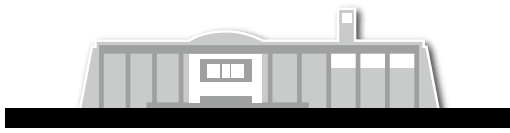
栗原 裕 (愛知大学/座長)
森田 佐知子 (豊橋創造大学)
宇田 光 (南山大学)
鍋田 智広^{ほか} (北陸先端大)

17:00 情報交換会 (ES 総合館)

2014年3月9日(日)には、大学教務実践研究会第1回大会
(FD・SD教育改善支援拠点事業)が名古屋大学で開催されます。

主催 ● 大学教育改革フォーラム in 東海 2014 実行委員会、名古屋大学高等教育研究センター [FD・SD教育改善支援拠点]

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/forum/tf2014>



大学教育改革フォーラム

in 東海 2014

2014年3月8日(土)

会場●名古屋大学東山キャンパス IB 電子情報館、ES 総合館

時間●10:00-17:00 (情報交換会 17:00-19:00)

会場案内図 地下鉄名城線「名古屋大学」駅②③番出口

● 指定喫煙所 ※建物内および歩行喫煙は禁止です。

プログラム

- 9:00 受付 (IB 電子情報館)
- 10:00 開会あいさつ (IB 電子情報館)
- 10:10 **基調講演** (IB 電子情報館)
- 11:00 移動
- 11:15 ポスターセッション (ES 総合館)
ミニワークショップ (ES 総合館)
- 12:00 昼食
- 13:00 **オーラルセッション I** (ES 総合館)
- 15:00 **オーラルセッション II** (ES 総合館)
- 17:00 情報交換会 (ES 総合館)

ぜひフォーラムの事前参加登録をお願いします

申込締切：2014年2月28日[金]
申込方法：ウェブサイトよりお申込みください

ポスターセッション

発表内容：大学教育の改善・支援に関する研究発表・実践報告
ポスターサイズ：縦1189mm×横841mm 以内
申込締切：2014年1月15日(水)
申込方法：ウェブサイトよりお申し込みください

事務局

名古屋大学高等教育研究センター
〒464-8601 名古屋市千種区不老町1
TEL.052-789-5696 FAX.052-789-5695
Email:info@cshe.nagoya-u.ac.jp

2014年3月9日(日)には、大学教務実践研究会第1回大会 (FD・SD 教育改善支援拠点事業) が名古屋大学で開催されます。



大学教育改革フォーラム

in 東海 2015

大学教育について、一緒に議論をし、連携・連帯を深め、質の高い大学教育をともに実現しませんか。大学教育をよりよくしたい、という意志や希望をお持ちの方々の参加をお待ちしております。

事前参加登録はこちらから ▶ <http://www.tokai-forum.jp>

3/7 SAT

会場 ● 名古屋大学東山キャンパス IB 電子情報館、ES 総合館、中央図書館
時間 ● 10:00-17:00 (情報交換会 17:00-19:00)
参加費無料 (情報交換会 2,000 円)

10:10 基調講演 (IB 電子情報館)

大学教育改革を進めるために必要なものとは

講演者：秦 敬治 (追手門学院大学副学長)

11:15 ポスターセッション (ES 総合館)
ミニワークショップ (ES 総合館)

ポスター発表募集中! 2015年1月14日(水)締切
お申し込みは Web から

物理学講義実験から体験学習への発展の可能性を探る-その2

13:00 オーラルセッション I (ES 総合館)

長期学外実習での学生の
学びを支える教職員の関わり

(ES 総合館)

中村 和彦 (南山大学/座長)
竹本 徳子 (立教大学)
土屋 耕治 (南山大学)

勉強会の企画運営を通じた
大学職員力の形成

(ES 総合館)

小山 敬史 (放送大学/座長)
山咲 博昭 (関西大学)
野澤 貴代 (名古屋大学)
内田 智也 (岐阜大学)

授業設計に多様な
視点を組み込む

(ES 総合館)

石橋 健一 (名古屋産業大学/座長)
岩崎 徳子 (武庫川女子大学)
松浦 照子 (名古屋短期大学)
榊原 暢久 (芝浦工業大学)

図書館での学習支援と
その担い手の新たな役割

(中央図書館)

佐野 充 (名古屋大学/座長)
久保田 進一 (金沢大学)
高橋 まりな (名古屋大学)
伊藤 舞 (名古屋大学)
佐藤 美穂 (名古屋大学)
吉田 有希 (名古屋大学)
森 彩乃 (名古屋大学)

15:00 オーラルセッション II (ES 総合館)

授業改善の内と外

(ES 総合館)

三上 肇 (中京大学/座長)
野田 智洋 (高知大学)
北川 光太郎 (三谷商事)

教育創造の草の根ネットワーク
「教育サロン」活動

(ES 総合館)

池田 輝政 (名城大学/座長)
本田 貴継 (ラーニング・バリュー)
熊谷 太郎 (松山大学)
松本 浩司 (名古屋学院大学)

組織に着目した教務の実践的
知識の積み上げとその継承

(ES 総合館)

村瀬 隆彦 (愛知みずほ大学/座長)
小野 勝士 (龍谷大学)
宮林 常崇 (首都大学東京)
上西 浩司 (豊橋技術科学大学)

大学業務の高度化と
大学院での学習

(ES 総合館)

浦田 広朗 (名城大学/座長)
中村 章二 (愛知教育大学)
岡 和寛 (京都産業大学)
竹中 喜一 (関西大学)

17:00 情報交換会 (ES 総合館)

[主催] 大学教育改革フォーラム in 東海 2015 実行委員会、名古屋大学高等教育研究センター [FD・SD 教育改善支援拠点]

<http://www.tokai-forum.jp>



大学教育改革フォーラム

in 東海 2015

2015年3月7日(土)

会場●名古屋大学東山キャンパス IB 電子情報館、ES 総合館、中央図書館

時間●10:00-17:00 (情報交換会 17:00-19:00)



プログラム

- 9:00 受付 (IB 電子情報館)
- 10:00 開会あいさつ (IB 電子情報館)
- 10:10 **基調講演** (IB 電子情報館)
- 11:00 移動
- 11:15 ポスターセッション (ES 総合館)
ミニワークショップ (ES 総合館)
- 12:00 昼食
- 13:00 **オーラルセッション I**
(ES 総合館・中央図書館)
- 15:00 **オーラルセッション II** (ES 総合館)
- 17:00 情報交換会 (ES 総合館)

ぜひフォーラムの事前参加登録をお願いします

申込締切：2015年2月27日[金]
申込方法：ウェブサイトよりお申込みください

ポスターセッション

発表内容：大学教育の改善・支援に関する研究発表・実践報告
ポスターサイズ：縦1189mm×横841mm 以内
申込締切：2015年1月14日(水)
申込方法：ウェブサイトよりお申し込みください

事務局

名古屋大学高等教育研究センター
〒464-8601 名古屋市千種区不老町1
TEL.052-789-5696 FAX.052-789-5695
Email:info@cshe.nagoya-u.ac.jp

大学教育改革フォーラム in 東海 2016

大学教育について、一緒に議論をし、連携・連帯を深め、質の高い大学教育をこの地域に実現しませんか。
大学教育をよりよくしたい、という意志や希望をお持ちの方々の参加をお待ちしております。

事前参加登録はこちらから ▶ <http://www.tokai-forum.jp>

3/12 SAT

会場 ● 愛知大学名古屋キャンパス
時間 ● 13:00 - 19:00 (受付12:00~)
参加費 ● 2,000円

13:00~14:00 基調講演

高校と大学の双方が信頼できる高大接続のあり方

講演者: 大塚 雄作 (独立行政法人大学入試センター試験・研究統括官/教授)

14:15~15:45 分科会第Ⅰ部

「今、大学の中で職員は
何をなすべきか
—大学が変革を求められる中、変革を推
進する職員像を模索して—」

村瀬 隆彦 (愛知みずほ大学)
加藤 史征 (名古屋大学)
辰巳 早苗 (追手門学院大学)
大津 正知 (九州大学)

「大学を中心とした有機
的地域連携」

舟橋 啓臣 (愛知医療学院短期大学)
岡田 善紀 (清須市役所)
山本 武司 (キリンビール)
式庄 憲二 (桜花学園大学)
福本 英司 (中日新聞)

「物理学講義実験から
体験学習への発展の可
能性を探る—その3」

齋藤 芳子 (名古屋大学)
小西 哲郎 (中部大学)
千代 勝実 (山形大学)
藤田あき美 (信州大学)

「ラーニングcommonsを
活用した学習」

土屋 玲 (南山大学)
足立 祐輔 (愛知学院大学)
中元 崇智 (中京大学)

16:00~17:30 分科会第Ⅱ部

「高大接続」

夏目 達也 (名古屋大学)
親松 和浩 (愛知淑徳大学)
羽石 優子 (名城大学附属高等学校)

「IRと経営改善」

加藤 誠 (東海学園大学)
笹川 修 (日本福祉大学)
鶴田 弘樹 (名城大学)

「グローバル人材育成」

藤井 玲子 (愛知東邦大学)
松崎 久美 (愛知県立大学)
徳弘 康代 (名古屋大学)
安部 悟 (愛知大学)

「学生が学ぶ授業運営
の工夫」

中島 英博 (名古屋大学)
落合 文洋 (名古屋文理大学)
小柳津久美子 (愛知東邦大学)

図書館セッション

14:15 「大学図書館と地域連携」

中村 直美 (愛知大学)
桂 まに子 (京都女子大学)
新海 弘之 (愛知県図書館)

16:00 「学生の学びと大学図書館における展示活動」

次良丸 章 (名古屋大学)
岡本 文子 (中部学院大学)
西尾 十和子 (金城学院大学)
吉丸 雄哉 (三重大学)

17:30~18:30 ポスターセッション

主催 ● 大学教育改革フォーラムin東海2016実行委員会

大学教育改革フォーラム in 東海 2017

大学教育について、一緒に議論をし、連携・連帯を深め、質の高い大学教育をこの地域に実現しませんか。
大学教育をよりよくしたい、という意志や希望をお持ちの方々の参加をお待ちしております。

..... 事前参加登録はこちらから ▶ <http://tokai-forum.com/>

3/25 SAT

会場 ● 金城学院大学
時間 ● 12:00~17:30 (受付11:00~)
参加費 ● 2,000円

12:00~13:00 基調講演

新しいリーダーシップ教育とディープ・アクティブラーニング

講演者: 日向野 幹也 (早稲田大学 大学総合研究センター教授)

13:15~14:45 分科会第Ⅰ部

キャリア教育

「インターンシップ事前教育における読書活動導入」
大仲 聡子 (名古屋産業大学)
「横断型人材育成のキャリア教育」
田端 哲夫 (東海学園大学)

学生がよく学ぶ成績評価を設計する

「卒業後のキャリアアップを見据えたアクティブラーニング」
青山 佳代 (愛知江南短期大学)
「ルーブリック評価は、自己成長を促すか？」
大津 史子 (名城大学)

物理教育におけるアクティブラーニングとその評価

「講義室における一斉物理実験授業と学びの定量的評価」
田中 忠芳 (金沢工業大学)
「力学講義における協働的な学習手法と教育効果」
中村 琢 (岐阜大学)
「異なる学生集団に対する力学概念調査と理解を深める教材開発」
三浦 裕一 (名古屋大学)
「山形大学における基盤力テストの現状と課題」
安田 淳一郎 (山形大学)

学生の「資質・能力」の育成

「女性リーダーシップ科目 WLI におけるICTを活用した協働的な学習」
長谷川元洋 (金城学院大学)
「リーダーシップ教育の展開」
松岡 洋佑 ((株)イノベスト)
「正課外活動における学習行動への好影響」
稲垣 太一 (金城学院高等学校)

自校教育にどのように取り組んだか

「自校教育科目・中京大学を知る」
風間 孝 (中京大学)
「『東亜同文書院45年+愛知大学70年』を伝える愛知大学記念館の公開活動をプロデュースして」
田辺 勝巳 (愛知大学)
「相山女学園の教育理念『人間になろう』を講義を通して伝えていく」
後藤 宗理 (相山女学園大学)

自由論題1

「『よくする』『つなぐ』『まなぶ』学生ピアサポート活動の実践報告」
鷺見 恵美 (名城大学)
「学生主体で運営するラーニングコモンズ “SPACE”」
池ヶ谷 浩二郎・斎藤 康夫 (創価大学)
「神戸大学における初年次セミナー共通教材の開発」
近田 政博 (神戸大学)

15:00~16:30 分科会第Ⅱ部

図書館・情報部門における学修支援

「Moodleの運用支援」
三浦 文博 (愛知大学)
「動画配信システムを使った反転授業構築サポート」
石原 有希子 (愛知大学)
「新図書館における学修支援・学生協働」
尾崎 友子 (名古屋女子大学)

高大接続・初年次教育

「名古屋大学教育学部附属中・高校における高大接続構想の特質と課題」
植田 健男 (名古屋大学)
「高大接続で大学工学部へ」
内海 那保子 (愛知工業大学名電高等学校)
「研究スキルを育成する総合的な学習の時間(Dignity)の実践」
柳瀬 公代 (金城学院高等学校)・内山 潤 (金城学院大学)

産学連携・入試制度

「あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワークによる地域連携」
成 玖美 (名古屋大学)
「地域連携における学生・職員・教員の協働のあり方」
家本 博一・杉山 晃一 (名古屋学院大学)
「追手門学院大学アサーティブプログラム・アサーティブ入試」
志村 知美 (追手門学院大学)

教育評価

「中部大学における全学共通教育の現状・評価・改善について」
松井 恒雄 (中部大学)
「ルーブリックの設計と活用事例から見てきた基礎教育の課題と展望」
落合 洋文 (名古屋文理大学)

自由論題2

「講義科目における『自学自習の促進』を狙ったActive Learningの進め方」
亀倉 正彦 (名古屋商科大学)
「建学の精神に基づいたキャリア教育」
町田 小織 (東洋英和女学院大学)
「女子大学ビジネス系学部における課題解決型学習の成果と課題」
水野 英雄 (相山女学園大学)

16:45~17:30 ポスターセッション

大学教育改革フォーラム in 東海 2018

大学教育について、一緒に議論をし、連携・連帯を深め、質の高い大学教育をこの地域に実現しませんか。
大学教育をよりよくしたい、という意志や希望をお持ちの方々の参加をお待ちしております。

..... 事前参加登録はこちらから ▶ <https://goo.gl/GpqXxB>

3/10 SAT

会場 ● 中京大学名古屋キャンパス1号館(図書館・学術棟)
時間 ● 13:00~18:30 (受付12:00~)
参加費 ● 1,000円

13:00~14:00 基調講演

大学ガバナンスから見た教育改革

講演者: 吉武 博通(首都大学東京・理事)

14:15~15:45 分科会第 I 部

発達障害のある学生への支援体制に関する現状や課題 — 修学支援・就労支援 —

「“どの入口から入っても大丈夫”な支援体制をめざして
: 岐阜大学の現状と課題」 堀田 亮(岐阜大学)

「発達障害および発達障害傾向のある学生への支援の現状
— 小規模大学における取組み —」 肥田 幸子(愛知東邦大学)

「障がい学生支援の取組みと課題 — 名城大学障がい学生
支援センター事例報告 —」 井上 法保(名城大学)

「高等教育機関に望む障害学生支援のあり方」
田中 芳則(名古屋総合リハビリテーション事業団)

高大接続

「高大接続と高校教育の現状」
服部 弘幸(岐阜県立郡上高等学校)

「動き始めた高大接続入試」 鳴川 義雄(中京大学)

「高校生と大学が相互に選択するための支援基盤の
整備のために」 山本 康二(学校法人河合塾)

現場で活躍できる教務系職員の専門性

「現場で使える職員をどのようにして育てるか
— 教務系職員の専門性はKKLで育てる —」
村瀬 隆彦(大学教務実践研究会)

「職場の人材育成機能を高める」 宮林 常崇(首都大学東京)

「どのように教職課程事務を学んだのか」 小野 勝士(龍谷大学)

アクティブラーニングと学修成果の見える化

「『四日市大学成長スケール』とアクティブラーニング」
齋藤 信(四日市大学)

「受講者にアクティブラーニングの意義・評価基準が伝わる
シラバスの作り方」 三上 仁志(中部大学)

「アクティブラーニングと学修成果の見える化
: 三重大学の取組」 山本 裕子・久保田 祐歌(三重大学)

16:00~17:30 分科会第 II 部

教学IRによる大学教育の理解

「名古屋大学における教学IR事業と今後の課題」
丸山 和昭(名古屋大学)

「教学データからの気づき: 教学IRの実践」
児島 完二(名古屋学院大学)

「教学IRで見えること、見えないこと」 大津 史子(名城大学)

組織マネジメント

「大学ビジョンの実現に向けた組織マネジメント
— 名城大学の事例を踏まえて —」 鶴田 弘樹(名城大学)

「椙山女学園大学における人材育成」
小林 嗣明(学校法人椙山女学園)

「愛知東邦大学における組織改革の取組」
増田 貴治(学校法人東邦学園)

今一度見直す授業設計

「アフォーダンス理論に基づく文系数学の
授業デザインと実践」 落合 洋文(名古屋文理大学)

「学生の学ぶ意欲を喚起させる授業の工夫」
石橋 健一(名古屋産業大学)

物理教育におけるアクティブラーニングとその評価

「物理学講義におけるアクティブラーニングの効用と課題」
千代 勝実(山形大学)

「概念の階層と理解について考える授業」 佐藤 実(東海大学)

「体系的理解を目指した物理学講義実験のシリーズ化」
古澤 彰浩(藤田保健衛生大学)

17:30~18:30 ポスターセッション

大学教育について、一緒に議論をし、連携・連帯を深め、質の高い大学教育をこの地域に実現しませんか。
大学教育をよりよくしたい、という意志や希望をお持ちの方々の参加をお待ちしております。

3/9

SAT

事前参加登録はこちらから ▶ <https://goo.gl/2rYdM7>

会場 ● 名城大学 ナゴヤドーム前キャンパス

時間 ● 10:00-16:45 (受付9:30-)

参加費 ● 1,000円(昼食付2,000円) / 学生無料(昼食付1,000円)

10:00~11:30 基調講演

今、大学の組織力が問われる—教育の質保証と教職員の能力開発—

講演者: 中井 俊樹 (愛媛大学 教育・学生支援機構 教授)

11:30~13:00

昼食/ポスターセッション

NEW!

ランチプレートの事前申し込みを受け付けています。
リラックスした雰囲気の中で交流を深めましょう!

13:00~14:45 分科会第I部

1. 学生支援

発達障害及びその特性のある学生への支援体制に関する
現状と課題(第2弾)—理解と支援—

「大学における発達障害およびその特性のある学生への
理解—青年期以降の課題と二次障害を踏まえて—」
高柳 伸哉(愛知東邦大学)

「支援者同士の“顔が見える”関係をめざして—学内・学外
連携—」
堀田 亮(岐阜大学)・川上 ちひろ(岐阜大学)

「筑波大学における発達障害学生支援プロジェクト
—支援体制の現状と他大学の学生支援に貢献できること—」
佐々木 銀河(筑波大学)

特別企画. 若手教職員

若手教職員のための今さら聞けない○○

竹中 喜一(愛媛大学)

2. アクティブラーニングと学修成果の見える化

主体的・対話的で深いよりよい学びのために

「日本福祉大学における初年次対象の教育の質を高めるた
めの取組」

村川 弘城(日本福祉大学)

「三重大学教養教育院『スタートアップセミナー』における学
修成果の可視化」

下村 智子(三重大学)

3. 危機管理

いま、なぜ防災か

—防災教育を通じて、学生とともに考える自主防災—

「防災(減災)教育の啓蒙と防災リーダー養成の課題につい
て考える」

水谷 俊之(佛教大学)

「国交省、気象庁と連携した静岡大学生の防災教育の取り
組み」

山本 隆太(静岡大学)

15:00~16:45 分科会第II部

4. 高大接続

入試改革への取組事例と高校現場から見た高大接続

「高大接続改革を見据えた入学者選抜のデザインに関する考察
—名古屋文理大学の取り組みを例として—」
長谷川 旭(名古屋文理大学)

「入試改革から始めるインナーブランディング」
松井 慶太(愛知東邦大学)

「高校現場から見た高大接続の魅力」
内海 那保子(愛知工業大学名電高等学校)

5. 社会人の学び直し/リカレント教育

地域市民の学び直しの現状を知る—大学にできることはなにか—

「愛知県の教育訓練給付データから見える社会人学び直し
の実態」
山下 新太郎(愛知労働局)

「名古屋市民の生涯学習活動と大学の連携—現状と課題—」
工藤 修(名古屋市教育委員会)

「行列のできる生涯学習—高年者を本気にさせる学び—」
戸谷 真美(愛知学院大学)

6. IR

教学IRを教職協働の視点から考える

—より円滑にIRによるPDCAを進めるには?—

恒川 幸司(岐阜大学)・大津 史子(名城大学)

7. 組織マネジメント

実務の視点からみた大学改革の現状と課題

—ミドルキーパーソン(大学改革の推進役を担う実務担当者)
の果たす役割とは—

「大学改革におけるミドルマネジメントの役割
—中期プラン策定の事例から—」
三井 正人(豊田工業大学)

「名古屋学院大学『中長期計画—Look Forward 2014-2023—』
の取組」

出口 博也(名古屋学院大学)

「中京大学長期計画『NEXT10(2014-2023)』に基づく大学改革」
原 理仁(中京大学)

大学教育について、一緒に議論をし、連携・連帯を深め、質の高い大学教育をこの地域に実現しませんか。
大学教育をよりよくしたい、という意志や希望をお持ちの方々の参加をお待ちしております。

… 参加をご希望の方は、フォーラムHPまたはQRコードより事前参加登録をお願いします ▶ <https://bit.ly/3nhBeLe>

3/6

SAT

- **会場** オンライン開催 (詳細は、参加登録者に別途お知らせいたします)
- **時間** 10:00～16:45 (接続開始9:45～)
- **参加費** 無料



10:00～11:00 基調講演

大学組織のリーダーシップとフォロワーシップ

講演者: 両角亜希子 (東京大学大学院 教育学研究科 准教授)

11:15～12:00 ポスターセッション・企業展示

12:00～13:00 休憩

13:00～14:45 分科会第Ⅰ部

学修成果の可視化 科目レベルでの学修成果の可視化

「全学的な教育・学習目標の設定と評価の試み」
小松川 浩 (公立千歳科学技術大学)

「ルーブリックを用いる学修成果の確認と成績評価の相関」
齋藤 正顕 (工学院大学)

「学修態度に注目する3段階学修理論およびそれに基づく
教育成果効果測定法の開発」
野村 聡 (名古屋文理大学)・落合 洋文 (名古屋文理大学)

セミナー型ワークショップA 今からでも間に合う高等教育政策の総復習

大津 正知 (中京大学)

学生支援

発達障害及びその特性のある学生への支援体制に関する
現状と課題 (第3弾) - 新たな取り組み -

「専門職養成学部における発達障害学生支援の現状と課題」
堀田 亮 (岐阜大学)・川上 ちひろ (岐阜大学)

「発達障害の特徴のある学生への対応方法の検討 - 仮想
事例を用いたグループワーク -」
脇 貴典 (筑波大学)

ミニワークショップ

物理現象と概念を結ぶ - 実験と講義の連携 -

千代 勝実 (山形大学)・伊東 正人 (愛知教育大学)
古澤 彰浩 (藤田医科大学)・三浦 裕一 (名古屋大学)
安田 淳一郎 (山形大学)

15:00～16:45 分科会第Ⅱ部

組織マネジメント

大学における組織マネジメントのあり方について
- 国公立大学における組織マネジメントの違いに着目して -

「国立大学の運営組織は非効率か？」
大津 正知 (中京大学)

「公立大学の未来は誰の手に? - 公立大学法人制度の理
念・特徴・実際 -」
宮林 常崇 (東京都立産業技術大学院大学)

「立命館はマネジメントされているか? - 複数キャンパスでの
教職協働経験から -」
橋本 規孝 (立命館大学)

セミナー型ワークショップB

Let's Try 傾聴ワークショップ
- あなたは学生の声が聴けていますか? -

松尾 祥子 (株式会社ソフィア総合研究所)

教学IR

コロナ禍における教学データ活用

「大学におけるライブ型遠隔教育の効果検証」
栗本 博行 (名古屋商科大学)・韓 尚憲 (名古屋商科大学)
竹内 伸一 (名古屋商科大学)

「IR担当によるデータ活用支援 - 教学IRを中心に -」
井芹 俊太郎 (法政大学)

FD

学生の学びを引き出す授業作り
- ベストプロフェッサーへの道 -

「BeforeとAfterを意識した15回愛情いっぱいの刺激を与え
続けるための授業づくり」
森尾 吉成 (三重大学)

「学生の主体性を引き出し行動を変える授業へのチャレンジ」
東 珠実 (相山女学園大学)

